

HP Service Health Optimizer

Windows[®] オペレーティングシステム用

ソフトウェアバージョン: 9.20

インストールおよび設定ガイド

ドキュメントリリース日: 2012 年 11 月 (英語版)

ソフトウェアリリース日: 2012 年 11 月 (英語版)



ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2011-2012 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Microsoft® および Windows® は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

Intel® および Xeon® は、Intel Corporation の米国およびその他の国の登録商標です。

文書の更新

本書の表紙には次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェアのバージョンを示すソフトウェアバージョン番号。
- 文書が更新されるごとに変更される文書発行日。
- 当該ソフトウェアバージョンのリリース日を示す、ソフトウェアリリース日。

最新の更新を確認する、あるいは使用している文書が最新版であるかどうかを確認するには、次の URL を参照してください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを使用するには HP Passport に登録してサインインする必要があります。HP Passport ID を登録するには、次の URL を参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログインページで [**New users - please register**] リンクをクリックしてください。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HP の営業担当にお問い合わせください。

サポート

以下の HP Software サポートオンライン Web サイトをご覧ください。

<http://support.openview.hp.com>

この Web サイトでは、連絡先情報や、HP ソフトウェアが提供する製品、サービスおよびサポートの詳細を提供しています。

HP ソフトウェアのオンラインサポートでは、セルフソルブ機能を提供しています。ビジネス管理に必要な対話型技術サポートツールにアクセスするための迅速かつ効率的な方法を提供します。弊社サポートの大切なお客様として、サポート Web サイトを使用して次のことが行えます。

- 興味のあるナレッジ文書の検索
- サポート事例と向上のためのリクエストの送信および追跡
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート契約の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- ソフトウェアを利用しているほかのお客様との討論への参加
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

サポート領域のほとんどでは HP Passport ユーザとして登録しサインインする必要があります。HP Passport ユーザー ID を登録するには、次の URL を参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次の URL を参照してください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

目次

1	はじめに	7
	概要	7
	SHO のコンポーネント	8
	SHO サーバー	8
	PMDB Platform	9
	コンテンツパック	9
	インストールメディア	9
	ドキュメントセット	9
2	インストールの前提条件	11
	ハードウェア要件	11
	ソフトウェア要件	11
3	インストールのセットアップ	13
4	SHO のインストール	15
	プレインストールチェックリスト	15
	SHO のインストール	15
	デスクトップヒープメモリの設定	18
5	SHO の設定	19
	タスク 1: SHO データベースの起動	20
	タスク 2: 管理コンソールの起動	20
	タスク 3: タイムゾーンの選択	21
	タスク 4: データベース接続の設定	21
	タスク 5: データベーススキーマの作成	22
	タスク 6: SHO データベースの再起動	24
	タスク 7: データベース接続サマリーのレビュー	26
	タスク 8: 管理データベースユーザーアカウントの作成	26
	タスク 9: トポロジーソースの設定	27
	SHO 用の RTSM トポロジーソースの設定	27
	SHO 用の HPOM トポロジーソースの設定	34
	SHO 用の VMware vCenter トポロジーソースの設定	38
6	コンテンツパックのデプロイ	41
	コンテンツパックのデプロイ	41

7 データ収集のための SHO の設定	43
VMware vCenter のデータ収集用の設定	43
VMware vCenter のデータ収集用の修正	45
8 SHO データベースへの SHO Web サーバー接続の設定	47
9 ライセンス取得	49
永久的なライセンスの取得	49
SHO の永久的なライセンスのインストール	50
10 SHO セットアップの検証	51
SHO サービスのチェック	52
SHO データベースのチェック	53
トポロジ収集のステータスのチェック	55
インストールされたコンテンツパックのチェック	55
コンテンツパックのワークフローストリームステータスのチェック	56
11 SHO のアンインストール	59
リモート SHO データベースのアンインストール	64
12 付録	65
インストールログファイル	65
デフォルトのポート番号の変更	66
HPOM データベースサーバーでのデータベースユーザーアカウントの作成	67
コンテンツパックのコンポーネント	76
13 お客様からのご意見をお待ちしております。	77

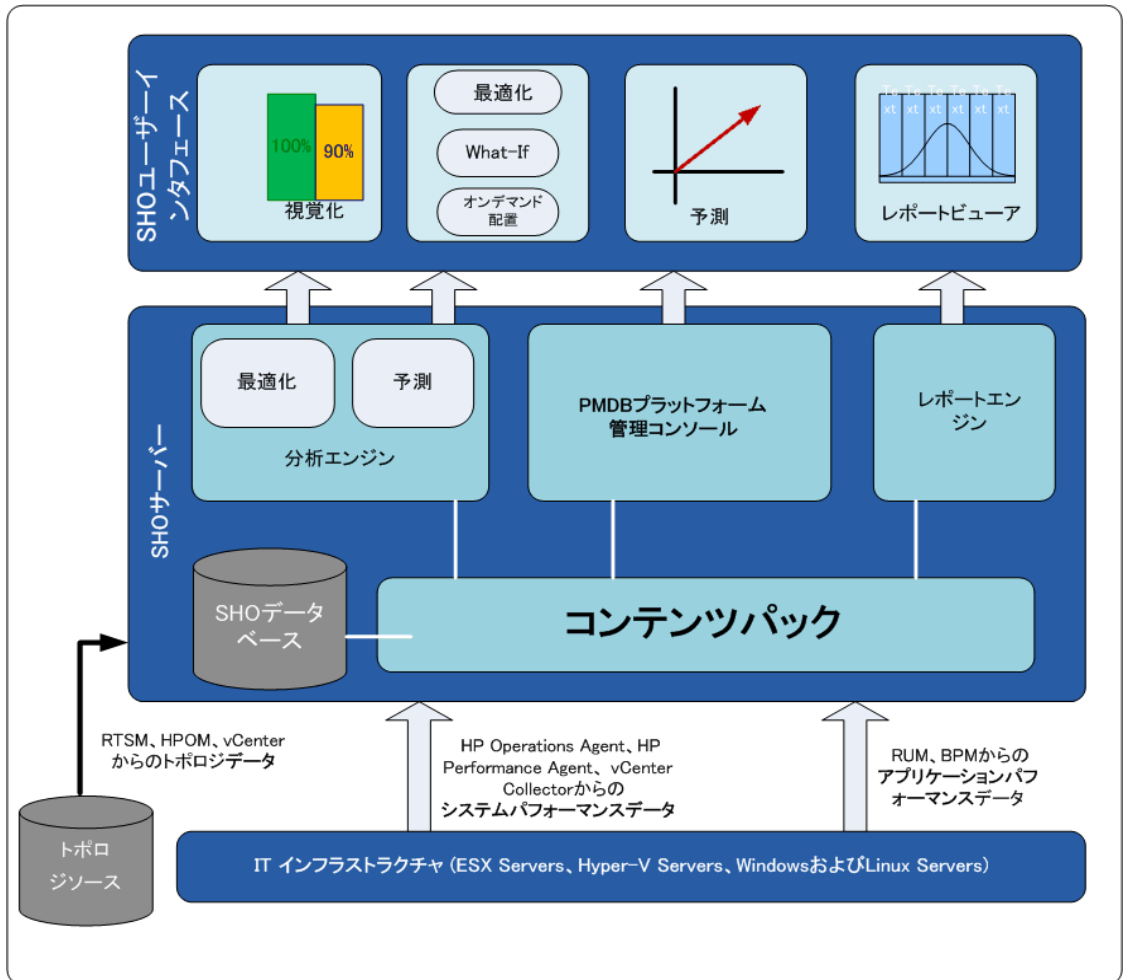
1 はじめに

HP Service Health Optimizer (SHO) は、x86/x64 ベースの仮想環境においてビジネスに配慮した容量管理および計画を行うためのツールです。これにより、ご使用のIT環境上の各種サービスへのインフラストラクチャの影響を評価することができます。IT リソースの使用履歴のトレンドおよび利用可能な容量に基づき、SHO はサービスのクラスに影響を及ぼすことなく現在のサーバーおよびストレージリソースを最適化する方法を推奨します。SHO、およびそのアーキテクチャと機能の詳細については、『HP Service Health Optimizer Concepts Guide』を参照してください。

概要

SHO は、各種コンテンツパックによって収集されたパフォーマンスデータを活用します。仮想環境における容量計画と最適化に関する推奨事項を提供するため、SHO はリソースの可用性および容量使用率データを PMDB Platform から収集します。

次の図に、SHO、PMDB Platform、およびコンテンツパックのアーキテクチャの概要を示します。



SHO のコンポーネント

SHO は次の 3 つのコンポーネントで構成されています。

SHO サーバー

SHO サーバーは、ビジネスグループに関するインフラストラクチャの現在の使用率と残りの容量を表示するために必要な、アプリケーションサーバーおよび必要な分析を提供します。また、利用可能な最適化の機会を分析し、容量の予測と計画を可能にし、最適な VM 配置を行うための方法も推奨します。

SHO サーバーは、次のサブコンポーネントで構成されます。

- エグゼクティブサマリー
- 詳細ビュー
- シナリオマネージャー

PMDB Platform

PMDB Platform は、SHO のデータストアです。このデータストアは、環境内の IT 要素の稼働状態、パフォーマンス、可用性データの共通のリポジトリです。プラットフォームデータストアには、コンテンツパック内のメタデータ仕様に基づいてデータストア内で処理、変換、および集約されるパフォーマンスデータが格納されます。

コンテンツパック

コンテンツパックを使用すると、プラットフォームのデータの収集、保存、処理、表示を行うことができます。

SHO のコンポーネントの詳細については、『HP Service Health Optimizer Concepts Guide』を参照してください。

インストールメディア

SHO のインストールメディアには、次のソフトウェアのインストールファイルが含まれています。

- SHO サーバー
- SHO データベース (Sybase IQ 15.40)

ドキュメントセット

このガイドに加えて、SHO には次のドキュメントがあります。

- **リリースノート** : 製品のインストールを開始する前にリリースノートを読んでください。リリースノートには、製品について、ハードウェアおよびソフトウェアの前提条件、インストール場所、既知の問題、および制限が記載されています。
- **コンセプトガイド** : 製品の基本概念、コンポーネント、アーキテクチャ、一般的なユーザーワークフローを理解するためにお読みください。
- **ユーザーオンラインヘルプ** : SHO のユーザーインターフェイスで実行できる手順を理解するためにお読みください。このヘルプは、ユーザーインターフェイス画面のコンテキストで起動できます。
- **管理者オンラインヘルプ** : 管理コンソールで実行できる手順を理解するためにお読みください。このヘルプは、管理コンソール画面のコンテキストで起動できます。

最新のドキュメントをダウンロードするには、次の URL を参照してください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

2 インストールの前提条件

ハードウェア要件

次の表に、SHO サーバーおよび SHO データベースを同じシステムにインストールする場合の最小ハードウェア要件を示します。

コンポーネント	最小要件
プロセッサのタイプ	2 GHz 以上 (x64 ビット) Intel Xeon または同等
プロセッサの数:	8
物理メモリ (RAM):	16 GB
SHO および SHO データベースの最小空きディスク領域:	300 GB

ソフトウェア要件

次の表に、最小限のソフトウェア要件を示します。

ソフトウェア	バージョン
オペレーティングシステム	Microsoft Windows Server 2008 x64 Enterprise Edition Service Pack 2 Microsoft Windows Server 2008 R2 x64 Enterprise Edition Service Pack 1 Microsoft Windows Server 2003 x64 Enterprise Edition Service Pack 2
Web ブラウザー	<ul style="list-style-type: none">Internet Explorer 8.0、9.0Mozilla Firefox 3.6、6.0、7.0
Flash Player	Adobe Flash Player 11 (SHO ユーザーインターフェースを表示したいシステムにのみインストール。)
Microsoft .NET Framework	2.0 Microsoft .NET Framework 2.0 のインストール手順については 12 ページ「 Microsoft .NET Framework 2.0 のインストール 」を参照してください。

Microsoft .NET Framework 2.0 のインストール

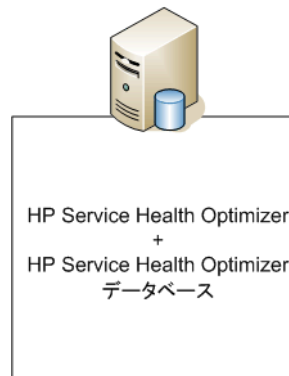
Microsoft .NET Framework 2.0 をインストールするには、以下の手順を実行してください。

- 1 管理者としてホストシステムにログオンします。
- 2 Webブラウザのアドレスバーに次のURLを入力して、MicrosoftダウンロードセンターのWebサイトにアクセスします。
`http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=B44A0000-ACF8-4FA1-AFFB-40E78D788B00&displaylang=ja`
- 3 **[ダウンロード]**をクリックして、.NET Framework version 2.0 (x64) 再頒布可能パッケージをダウンロードします。
- 4 ダウンロードが完了したら、ファイルがダウンロードされた場所を参照して、NetFx64.exe セットアップファイルをダブルクリックします。Microsoft .NET Framework 2.0 (x64) セットアップウィザードが開きます。
- 5 **[Microsoft .NET Framework 2.0 (x64) セットアップへようこそ]** ページで、**[次へ]** をクリックします。使用許諾契約書ページが開きます。
- 6 使用許諾契約書を確認した後で、**[同意する]** チェックボックスをオンにし、**[インストール]** をクリックします。**[コンポーネントのインストール]** ページが表示されます。
- 7 コンポーネントをインストールした後に、**[セットアップの完了]** ページが開きます。**[完了]** をクリックしてインストールを完了します。

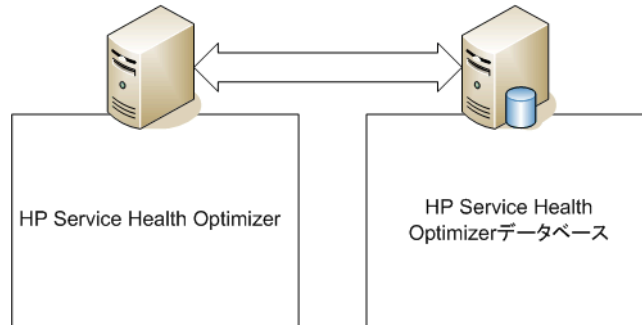
3 インストールのセットアップ

次のいずれかのセットアップを使用して **SHO** をインストールできます。

- **SHO** サーバーと **SHO** データベースを同じシステムにインストールします。
このセットアップは、デプロイする全体的なセットアップが小規模な場合に実装できます。
また、このセットアップは概念実証の実装にも使用できます。



- **SHO** サーバーをあるシステムに、**SHO** データベースを別のシステムにインストールします。



HP Service Health Reporter (SHR) をプレインストールした場合は、**SHO** サーバーと **SHO** コンテンツパックを **SHR** がインストールされたシステムにインストールする必要があります。

4 SHO のインストール

プレインストールチェックリスト

SHO のインストールに進む前に、以下のタスクが完了していることを確認してください。

<input type="checkbox"/> ハードウェアが SHO の要件を満たしている。	11 ページ「ハードウェア要件」を参照してください。
<input type="checkbox"/> SHO をサポートするオペレーティングシステムと Web ブラウザーを使用している。	11 ページ「ソフトウェア要件」を参照してください。
<input type="checkbox"/> ソフトウェア要件がすべて満たされている。	11 ページ「ソフトウェア要件」を参照してください。
<input type="checkbox"/> 必要なインストールメディアがそろっている。	9 ページ「インストールメディア」を参照してください。

SHO のインストール

SHO サーバーをインストールするには、次の手順を実行します。

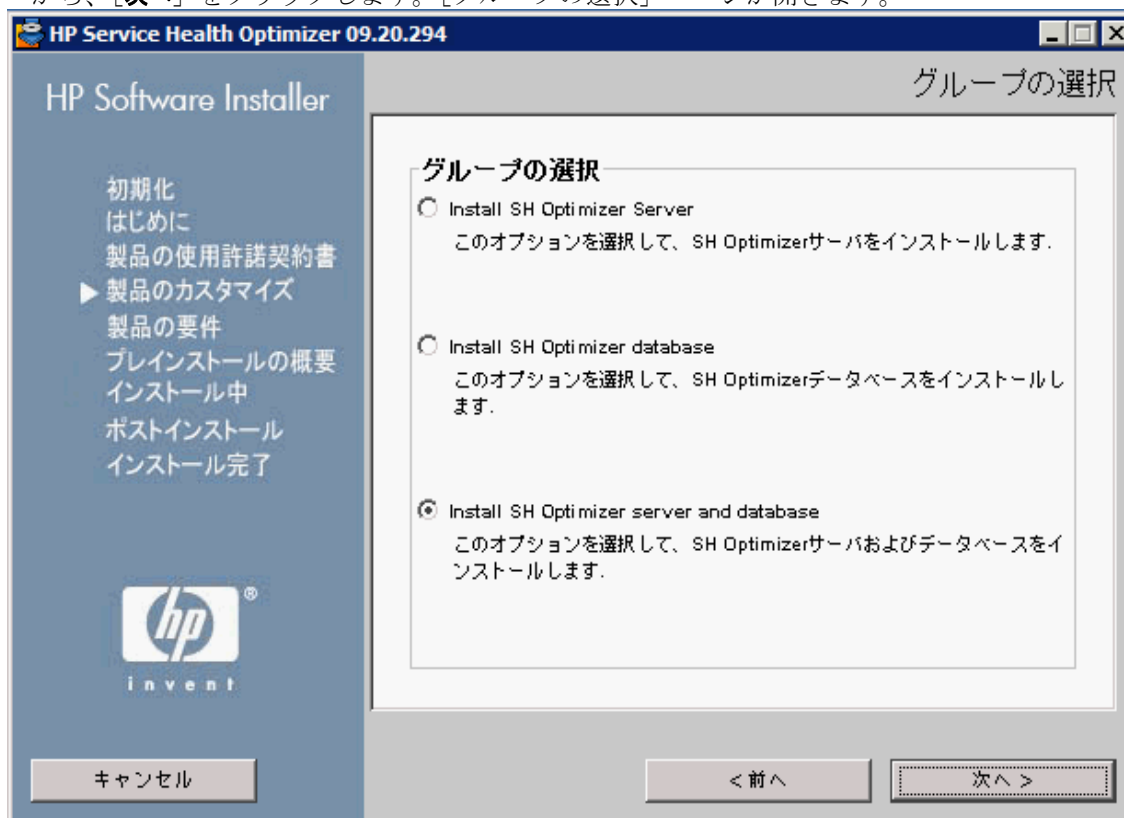
- 1 ホストシステムにログオンします。管理者の権限を持っている必要があります。
- 2 SHO をインストールするシステムの DVD ROM にインストールメディアを挿入します。自動実行機能によって、インストールプロセスが起動されます。システムで自動実行が無効になっている場合は、メディア上のインストールファイルの場所に移動し、setup.exe ファイルをダブルクリックします。
- 3 [よろこぞ] 画面が開きます。SHO に使用する言語を選択します。[OK] をクリックします。
- 4 HP Software Installer ウィンドウが開きます。
HP Software Installer によって、システムに SHO のインストールの妨げになる可能性があるアプリケーションまたはサービスがないかチェックされます。HP Software Installer によって妨げになるものが検出された場合、アプリケーションの要件チェックの警告ウィンドウが表示されます。
- 5 アプリケーションの要件チェックの警告ウィンドウに表示される警告の詳細を表示し、エラーまたは警告を解決または無視します。
 - a 警告またはエラーをクリックして詳細を表示します。
 - b 詳細説明に従ってエラーまたは警告を解決または無視します。
 - インストールを終了してエラーを解決する場合は、[終了] をクリックします。エラーが解決したら、インストールプロセスをもう一度開始します。

- 警告を無視してインストールを続行する場合は、[続行] をクリックします。[はじめに (インストール)] ページが開きます。



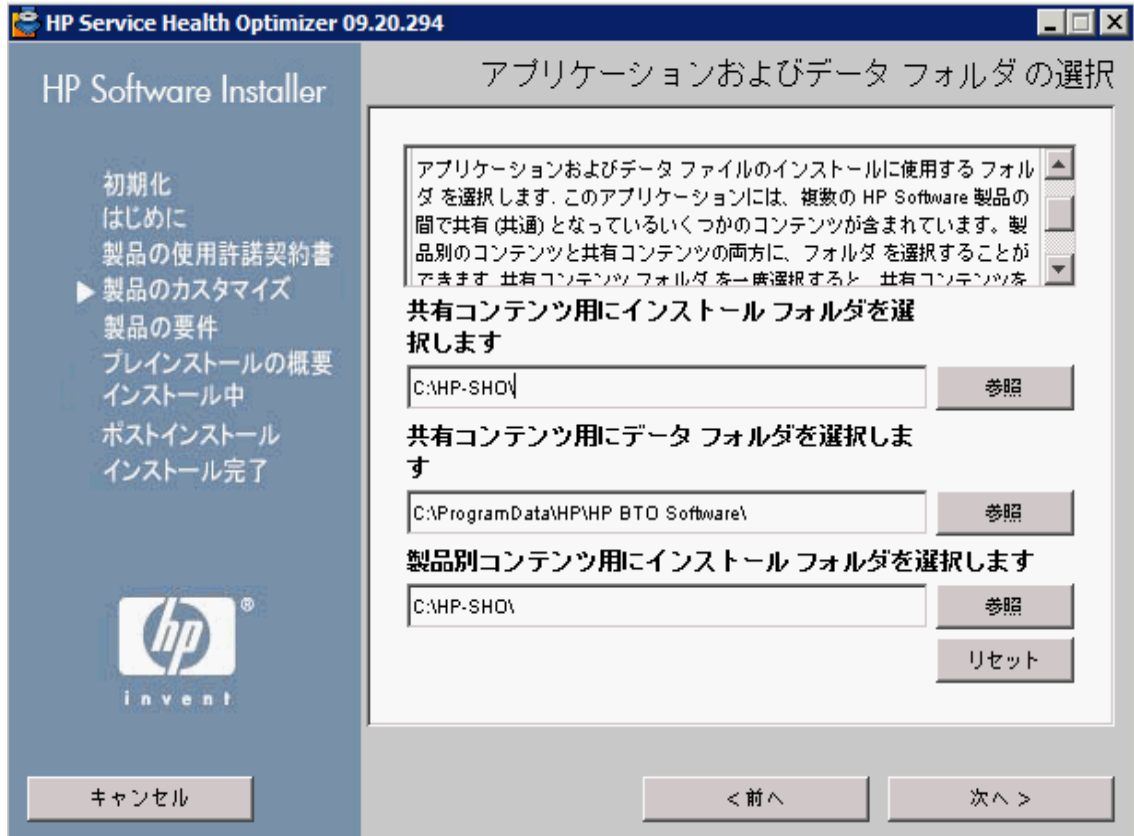
これが SHO の前回のインストールではない場合は、HP Software Installer によって、最初のインストール中に作成したインストール設定ファイルを使用するように指示するプロンプトが表示されます。このファイル内の値を使用する場合は、インストールの設定のメッセージボックスで [はい] をクリックします。インストール設定ファイルを使用しないで、[いいえ] をクリックします。

- 6 [はじめに (インストール)] ページを確認し、[次へ] をクリックします。
- 7 [ライセンス契約] ページの条件を確認し、[ライセンス契約の条項に同意します] を選択してから、[次へ] をクリックします。[グループの選択] ページが開きます。



- 8 以下のオプションのうちいずれかを選択します。
 - **Install SH Optimizer Server:** SHO サーバーをインストールする場合は、このオプションを選択し、[次へ] をクリックします。
[機能の選択] ページが開きます。
[機能の選択] ページを確認して [次へ] をクリックします。
 - **Install SH Optimizer database:** SHO データベースをインストールする場合は、このオプションを選択し、[次へ] をクリックします。SHO サーバーと SHO データベースを別のマシンにインストールする場合は、このオプションを使用してください。
 - **Install SH Optimizer server and database:** SHO サーバーおよび SHO データベースをインストールしたい場合は、このオプションを選択してください。
[機能の選択] ページが開きます。
[機能の選択] ページを確認して [次へ] をクリックします。

9 [アプリケーションおよびデータ フォルダの選択] ページが開きます。



HP Software Installer によってシステムに他にインストールされている HP 製品がないかチェックされます。

- 他の HP 製品がインストールされていない場合は、共有される HP コンテンツのアプリケーションファイルがデフォルトのフォルダーである %OvInstallDir% にインストールされます。
- ▶ システムにインストールされている他の HP ソフトウェア製品がある場合は、インストールディレクトリを指定するように要求するメッセージは SHO から表示されません。
- 共通の HP ソフトウェアデータファイルがデフォルトのフォルダーである %OvDataDir% にインストールされます。

[次へ] をクリックします。[インストールのチェック] ページが表示されます。

10 [インストールのチェック] ページを確認します。

インストーラーが以下のチェックを実施します。


- SHO のインストールに利用可能なディスク容量。
利用可能なディスク容量が不十分な場合は、**ハードウェア要件**を確認して適宜ディスク容量を確保してください。
- SHO のインストールパスの有効性。
指定インストールパスが有効でない場合は、インストールパスが存在しているか確認するか、新しいインストールパスを定義します。
- .NET Framework 2.0 の可用性。
SHO のインストールに進む前に **.NET Framework 2.0** をインストールしてください。

- SHO のデフォルトポートの可用性。
SHO に割り当てられるデフォルトポートは 8081 ですが、このポートを利用できない場合は、インストール完了後に SHO に別のポートを割り当てることができます。SHO に異なるポートを割り当てるには、66 ページ「[デフォルトのポート番号の変更](#)」を参照してください。

インストールチェックに失敗した場合は、[キャンセル] をクリックしてインストールを停止します。インストールチェックが正常に終了した場合は、「[次へ](#)」をクリックします。[プレインストールの概要] ページが開きます。

11 [プレインストールの概要] ページを確認し、[インストール] をクリックします。

12 インストールが完了した後、[インストールの完了] ページが開きます。
このページの [サマリ] タブおよび [詳細] タブでインストール後の詳細を確認できます。

 [ログファイルを表示します] をクリックしてインストールログファイルを表示します。ログファイルを使用して、インストールプロセス全体を確認するか、特定の問題のトラブルシューティングを行うことができます。インストールログファイルの詳細については、65 ページ「[インストールログファイル](#)」を参照してください。

13 [完了] をクリックします。

デスクトップヒープメモリの設定

1つのユーザーセッション内で、すべてのデスクトップオブジェクトにデスクトップヒープメモリが関連付けられます。デスクトップヒープには、ウィンドウ、メニュー、フックなどの特定のユーザーインタフェースオブジェクトが格納されます。次のような理由で、デスクトップヒープへの関連付けの失敗が発生することがあります。

- 特定のセッションのセッションビュースペースがすべて使用されている場合は、新しいデスクトップヒープを作成できません。
- 既存のデスクトップヒープの割り当てがすべて使用されている場合は、デスクトップを使用するスレッドが追加のデスクトップヒープを使用できません。

デスクトップヒープが消費されると、SHO での特定のデータ処理ストリームの失敗 (エラーステータスコード 128 または 832) を回避することができ、さらに、収集フレームワークの各段階 (集約、変換、ステージング) でのデータの移動を防止できます。

デスクトップヒープの使用の問題を回避するには、レジストリエディターでヒープメモリのデフォルト値を変更する必要があります。


- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。
- 2 [名前] フィールドに regedit と入力し、[ENTER] キーを押します。[レジストリエディタ] ウィンドウが開きます。
- 3 左側のペインで、[HKEY_LOCAL_MACHINE]、[SYSTEM]、[CurrentControlSet]、[Control]、[Session Manager] の順に展開し、[SubSystems] をクリックします。
- 4 右ペインで、[Windows] を右クリックし、[修正] をクリックします。[文字列の編集] ダイアログボックスが開きます。
- 5 [値のデータ] ボックスで、値 **ObjectDirectory=¥Windows SharedSection=1024,20480,768** を **ObjectDirectory=¥Windows SharedSection=1024,20480,1536** に変更します。
- 6 レジストリエディターでの変更が終了したら、システムを再起動します。

5 SHO の設定

SHO をインストールした後でコンテンツパックをインストールする前に、この章で説明しているすべての設定作業を実行する必要があります。

次のタスクを実行して SHO を設定します。

タスク 1: SHO データベースの起動

 タスク 1 は、SHO データベースを別のシステムにインストールした場合にのみ実行します。そうでない場合は、タスク 2: 管理コンソールの起動に進みます。


タスク 2: 管理コンソールの起動

タスク 3: タイムゾーンの選択

タスク 4: データベース接続の設定

タスク 5: データベーススキーマの作成

タスク 6: SHO データベースの再起動


 タスク 6 は、SHO をリモート SHO データベースとともにインストールした場合にのみ実行します。そうでない場合は、タスク 7: データベース接続サマリーのレビューに直接進みます。

タスク 7: データベース接続サマリーのレビュー

タスク 8: 管理データベースユーザーアカウントの作成

タスク 9: トポロジーソースの設定

タスク 1: SHO データベースの起動

 このタスクは、SHO データベースを別のシステムにインストールした場合にのみ実行します。そうでない場合は、次のタスクに進みます。


SHO データベースを起動するには、次の手順を実行します。

- 1 SHO データベースをインストールしたりリモートシステムに管理者権限でログオンします。
- 2 [スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックします。[ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスが開きます。
- 3 cmd と入力し、**ENTER** キーを押して、コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
- 4 コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力して SHO データベースを起動します。

```
start_iq @<SHO_database_home>%Sybase%IQ-15_4%scripts%pmdbConfig.cfg
```

ここでは、<SHO_database_home> はリモートシステムの SHO データベースのインストールディレクトリを示します。

- 5 **ENTER** キーを押します。[Starting IQ] ウィンドウが開きます。
- 6 コマンドプロンプトウィンドウを閉じます。

 SHO データベースを停止するには、通知バーの Sybase IQ サーバーのアイコンを右クリックして、ポップアップメニューからオプションを選択します。

Sybase IQ サーバーのアイコンが、SHO システムの通知バーに表示されない場合は、次のコマンドを使用して SHO データベースを停止します。

```
dbstop -y -c uid=dba;pwd=sql;eng=<サーバーエンジン名>;  
dbn=utility_db;links=tcipip{host=<ホスト名>.<ドメイン名>;  
port=21424}
```


ここでは、<サーバーエンジン名> は Sybase サーバーエンジンの名前を示し、<ホスト名> は SHO データベースをホスティングするシステムの名前を示し、<ドメイン名> はネットワーク構成に従ったドメインの名前です。

このコマンドは 1 行に入力する必要があります。

タスク 2: 管理コンソールの起動

管理コンソールを起動するには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート]→[プログラム]→[HP Software]→[SH Optimizer]→[Administration]をクリックします。管理コンソールが開きます。
- 2 [ログイン名]フィールドに **administrator** と入力し、[ログイン]をクリックします。PMDB Platform 設定ウィザードが開きます。

 インストール後の PMDB Platform 設定ウィザードは、インストール後の設定作業を完了していない場合にのみ表示されます。ウィザードは、セッション状態の維持をサポートします。これにより以前に中断された設定セッションを再開して続行することができます。

タスク 3: タイムゾーンの選択

[パラメータの設定] ページで、SHO を動作させるタイムゾーンを選択します。

タイムゾーンを選択するには、次の手順を実行します。

- 1 [タイムゾーンの選択] で、次のように選択します。
 - SHO で GMT 時間に従う場合は [GMT]
 - SHO でシステムのローカル時間に従う場合は [Local]
- 2 [次へ] をクリックします。[データベース接続の設定] ページが開きます。

タスク 4: データベース接続の設定

[データベース接続の設定] ページで、SHO のデータベースの作成場所となるデータベースサーバーの詳細を指定します。

データベース接続を設定するには次の手順に従います。

- 1 SHO および SHO データベースを別のシステムにインストールする場合は、[データベース接続の設定] ページで、[リモートデータベース] を選択します。
- 2 [データベース接続パラメーターの入力] で、次の値を入力します。

フィールド	説明
ホスト名	SHO データベースサーバーが実行されているホストの名前または IP アドレス。
ポート	データベースサーバーを照合するためのポート番号。デフォルトポートは 21424 です。
サーバー名	SHO データベースサーバーの名前。SHO データベースサーバー名がサブセット全体で固有であることを確認します。 このフィールドに表示されるサーバー名は情報提供のみを目的としています。サーバー名はどんな場合でも変更しないようにする必要があります。

- 3 [データベースユーザー (DBA 権限) とパスワードの入力] で、次の値を入力します。

フィールド	説明
ユーザー名	SHO データベースユーザーの名前。ユーザーは、DBA の権限を持っていないければなりません。デフォルトのユーザー名は dba です。
パスワード	データベースユーザーのパスワード。デフォルトのパスワードは sql です。 インストール後の設定作業を続ける前にデフォルトのパスワードを変更することをお勧めします。パスワードを変更する方法については、Sybase IQ のマニュアルを参照してください。

- 4 [PMDB データベースユーザー (PMDB_ADMIN) のパスワードの選択] で、次の値を入力します。

フィールド	説明
管理パスワード	データベース管理者のパスワード。
管理パスワードの確認	確認のために同じパスワードを再入力します。

- 5 [次へ] をクリックします。[データベーススキーマの作成] ページが開きます。

タスク 5: データベーススキーマの作成

[データベーススキーマの作成] ページで、データベースのデプロイメントサイズ (つまり SHO がデータを収集する元になるノードの数) を指定します。ユーザーの選択に応じて、推奨されるデータベースサイズが SHO によって計算されて表示されます。

データベーススキーマを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [デプロイメントサイズの選択] の下で、要件を基にして次のいずれかのデータボリュームを選択します。

フィールド	説明
小ボリューム	このオプションを選択すると、SHO が 500 未満のノードからのデータ収集をサポートできるようになります。
中ボリューム	このオプションを選択すると、SHO が 500～5000 のノードからのデータ収集をサポートできるようになります。

- 2 [推奨 IQ 設定] で、次の値を入力します。

フィールド	説明
IQ メインキャッシュ (MB)	SHO データベースメインストアのメインバッファキャッシュの推奨サイズ。この値はデフォルトで設定され、変更できません。
IQ 一時キャッシュ (MB)	SHO データベースの一時ストアの一時バッファサイズの推奨サイズ。この値はデフォルトで設定され、変更できません。
IQ DB 領域サイズ (MB)	メインデータベースファイルを格納する IQ_System_Main DBSpace の推奨サイズ。このサイズは変更可能です。
IQ 一時 DB 領域サイズ (MB)	一時データベースファイルを格納する IQ_System_Temp DBSpace の推奨サイズ。このサイズは変更可能です。



1500～2000 のノードを監視している場合、中規模デプロイメントシナリオの SHO データベース一時 DB 領域サイズに推奨される 96GB では不十分な場合があります。この場合は、DB 領域サイズに大きい値を設定する必要があります。

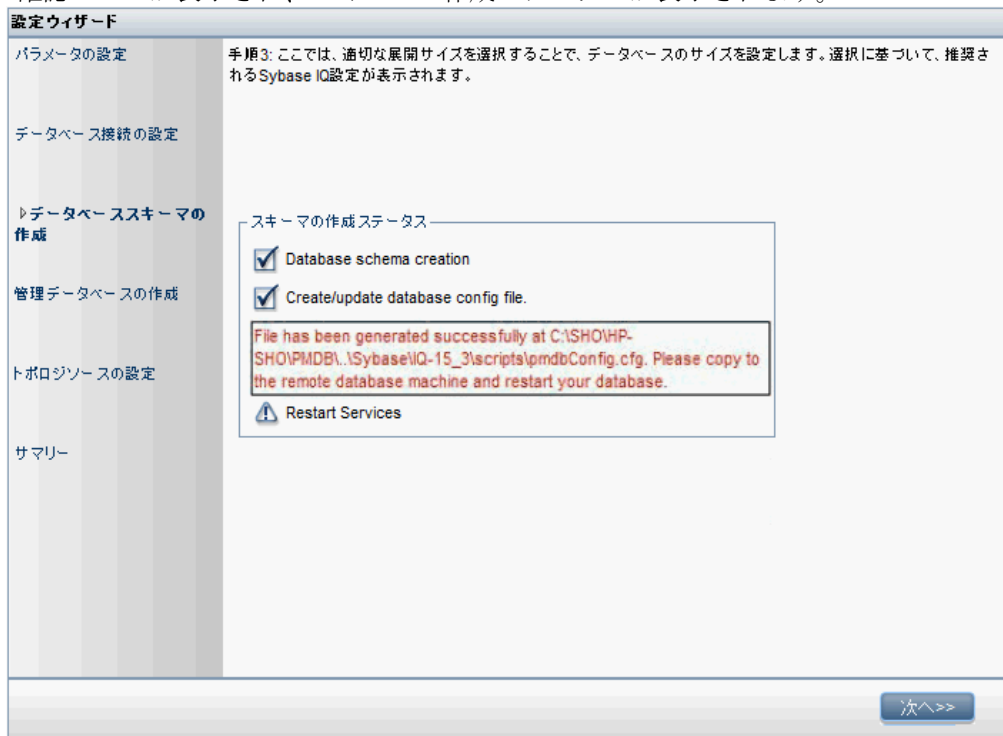
- 3 SHO が組み込み SHO データベースでインストールされている場合：
 - a [データベースファイルの場所] フィールドに、データベースファイルが保存される場所を入力します。たとえば、C:\¥HP-SHO¥Sybase¥db のように入力します。
 - b [次へ] をクリックします。確認のダイアログボックスが開きます。
 - c [はい] をクリックします。データベース接続とスキーマの作成が正常に実行された場合は、確認ページが表示され、スキーマの作成ステータスが表示されます。データベース接続とスキーマの作成が失敗した場合は、[前へ] ボタンをクリックして指定した値を確認します。
- 4 SHO がリモート SHO データベースでインストールされている場合：

- a [データベースファイルの場所] フィールドに、リモートマシン上にデータベースファイルを保存する場所を入力します。たとえば、C:\¥HP-SHO¥Sybase¥db のように入力します。
[データベースファイルの場所] フィールドにパスを入力する前にデータベースフォルダーを作成します。




選択した SHO データ収集ボリュームをサポートするための十分なシステムリソースがあることを確認してください。

- b [次へ] をクリックします。確認のダイアログボックスが開きます。
リモートデータベースホストマシン上のデータベースフォルダーの存在を確認するように指示するメッセージが表示されます。
- c [はい] をクリックします。データベース接続とスキーマの作成が正常に実行された場合は、確認ページが表示され、スキーマの作成ステータスが表示されます。



新しく作成された pmdbConfig.cfg ファイルをリモートシステムにコピーしてからデータベースを再起動するように指示するメッセージが表示されます。
データベース接続とスキーマの作成が失敗した場合は、[前へ] ボタンをクリックして指定した値を確認します。

タスク 6: SHO データベースの再起動

 このタスクは、SHO データベースを別のシステムにインストールした場合にのみ実行します。そうでない場合は、[タスク 7: データベース接続サマリーのレビュー](#)に直接進みます。


このタスクでは、最初に SHO データベースの実行を停止する必要があります。その後で、SHO データベースサービスマネージャを使用して、**Sybase IQ** サービスを作成する必要があります。その後でこのサービスを使用して、SHO データベースを再起動することができます。

次の手順を実行します。

- 1 新しく作成されたデータベースフォルダーを参照し、`pmdbConfig.cfg` ファイルをリモートシステムにコピーします。
- 2 **[スタート]** → **[ファイル名を指定して実行]** をクリックします。**[ファイル名を指定して実行]** ダイアログボックスが開きます。
- 3 `cmd` と入力し、**ENTER** キーを押して、コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
- 4 コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力して SHO データベースを停止し、**[Enter]** キーを押します。

```
dbstop -y -c uid=dba;pwd=sql;eng=<サーバーエンジン名>;  
dbn=utility_db;links=tcPIP{host=<ホスト名>.<ドメイン名>;port=21424}
```

ここでの `<サーバーエンジン名>` は Sybase サーバーエンジンの名前を示し、`<ホスト名>` は SHO をホスティングするシステムの名前を示し、`<ドメイン名>` はネットワーク構成に従ったドメインの名前です。

 このコマンドは 1 行に入力する必要があります。

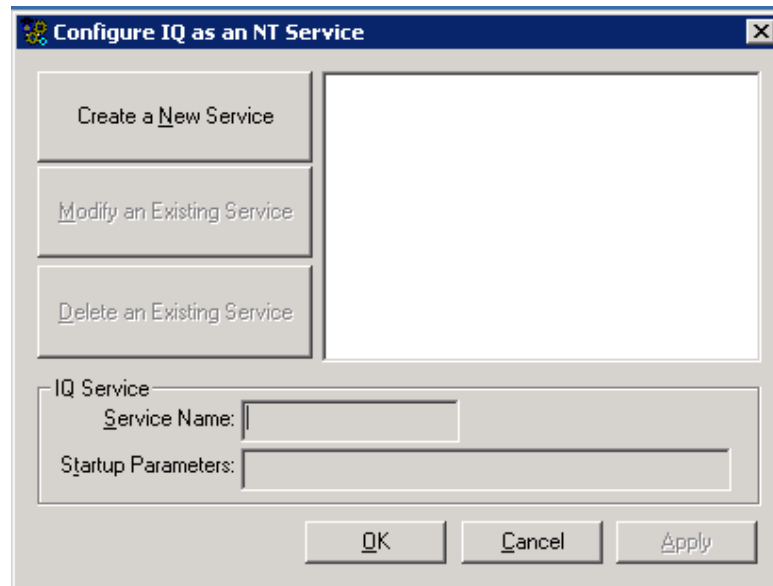
通知バーの **Sybase IQ** サーバーのアイコンを右クリックして、メニューからデータベースの停止を選択することもできます。

SHO データベースサービスの作成

SHO データベースを Windows サービスとして実行すると、マシンが起動されるたびにサーバーを自動的に起動し、Windows が実行されている間バックグラウンドで実行することができます。

SHO データベースサービスを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート]→[プログラム]→[Sybase]→[Sybase 15.3]→[Sybase IQ Service Manager]をクリックします。[Configure IQ as an NT Service] ウィンドウが開きます。



- 2 [Create a New Service] をクリックします。
- 3 [Service Name] フィールドに、リモート SHO データベースサーバーの名前を入力します。
- 4 [Startup Parameters] フィールドに、pmdbConfig.cfg ファイルに記載されているすべてのパラメーターを入力します。
- 5 %IQDIR15%\scripts を参照し、pmdbConfig.cfg ファイルを開きます。ファイルに記載されているすべてのパラメーターを [Startup Parameters] フィールドにコピーします。

-n <サーバー名> <パラメーター> <データベースファイルのパス>

ここでの<サーバー名>はリモート SHO データベースサーバーの名前であり、<パラメーター>はpmdbConfig.cfg ファイル内に存在するすべてのパラメーターであり、<データベースファイルのパス>はリモートサーバー上のデータベースファイルの場所です。

以下に例を示します。

```
-n testserver1 -x tcpip{port=21424} -c 48m -gc 20 -gd all -gl all -gm 100 -gp 4096 -iqmsgsz 100 -iqmsgnum 4 -iqmc 1845 -iqtc 1430 -iqmt 3500 -ti 4400 -gn 25 C:\%sybaseIQ%db%pmdb.db
```

データベースファイルへのフルパスを含めます。有効なデータベースパス名がないとサーバーは起動できません。

- 6 [Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。

SHO データベースサービスの開始

- 1 [スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックします。[ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスが開きます。
- 2 services.msc を [名前] フィールドに入力してから、[ENTER] キーを押します。[サービス] ウィンドウが開きます。
- 3 右側のペインで、新しく作成された SHO データベースサービスを右クリックし、[開始] をクリックします。

タスク 7: データベース接続サマリーのレビュー

SHO ホストシステムの管理コンソールで、以下を確認します。

- タスク 4 で設定したデータベース接続
- タスク 5 で作成したデータベーススキーマ

[**次へ**] をクリックします。[管理データベースの作成] ページが開きます。

タスク 8: 管理データベースユーザーアカウントの作成

管理データベースとは、データプロセスジョブストリームのステータス、変更されたテーブルのステータス、ノード情報などの実行時データを保存するために SHO によって使用されるオンライントランザクション処理 (OLTP) ストアを意味します。

[管理データベースの作成] ページで、管理データベースのユーザーの詳細を指定します。

管理データベースのユーザーアカウントを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [管理データベースユーザー (DBA 権限) とパスワードの入力] で、次の値を入力します。

フィールド	説明
ユーザー名	PostgreSQL データベースユーザーの名前。デフォルトの値は postgres です。
パスワード	PostgreSQL データベースユーザーのパスワード。デフォルトの値は PMDB92_admin@hp です。

- 2 **PMDB Platform 管理データベースユーザー情報** で、次の値を入力します。

フィールド	説明
新しいパスワード	管理データベースユーザーのパスワード。
新しいパスワードの確認	確認のために同じパスワードを再入力します。

- 3 [**次へ**] をクリックします。サマリー ページが開きます。
- 4 データベース接続と管理データベースの詳細を確認し、[**終了**] をクリックして、インストール後の設定作業を完了します。

システムを再起動し、PMDB Platform Collection Service と PMDB Platform Message Broker Service の依存関係が有効になっていることを確認します。

タスク 9: トポロジーソースの設定

データ収集のための SHO の設定は、選択するトポロジーソースによって異なります。

- **Run Time Service Model (RTSM)** デプロイメントシナリオで **SHO** をインストールした場合、27 ページ「**SHO 用の RTSM トポロジーソースの設定**」を参照してください。
- **HP Operations Manager (HPOM)** デプロイメントシナリオで **SHO** をインストールした場合、34 ページ「**SHO 用の HPOM トポロジーソースの設定**」を参照してください。
- **VMware vCenter** デプロイメントシナリオで **SHO** をインストールした場合、38 ページ「**SHO 用の VMware vCenter トポロジーソースの設定**」を参照してください。

SHO 用の RTSM トポロジーソースの設定

BSM Service and Operations Bridgeまたは**Application Performance Management**デプロイメントシナリオでは、**RTSM** がのトポロジ情報源になります。トポロジー情報には、**RTSM** においてモデル化されて検出されるすべての構成アイテム (CI) が含まれます。グループ情報は、**RTSM** ビューから取得されます。ノードリソース情報は、**RTSM** から直接取得されます。情報の収集は、**RTSM** が開示している **Web** サービスインタフェースを介して行われます。

RTSM トポロジソースを設定するには、次のタスクを実行する必要があります。

タスク 1: トポロジービューのデプロイメント

HP BSM 環境では、**RTSM** を使用して **CI** が検出され、トポロジビューが作成されます。ドメイン固有データを収集するように **SHO** を設定するには、まずコンテンツパックごとにそのようなトポロジビューをデプロイする必要があります。

そのトポロジビューには、コンテンツパックが関連データを収集するのに使用する個々の **CI** 属性が備えられています。ただし、このトポロジビューは、コンテンツパックごとに異なる可能性があります。

HP BSM サーバーでのコンテンツパック用のトポロジモデルビューをデプロイするには、次の手順を実行します。

- 1 管理者として **HP BSM** ホストシステムにログオンします。
- 2 **HP BSM** ホストシステムからリモートアクセスを通して管理者として、**SHO** がインストールされているホストシステムにログオンします。
- 3 `%PMDB_Home%\packages` に移動し、以下のトポロジビューをコピーします。

コンテンツパック	ビュー名	場所
SHO	SHO_View.zip	%PMDB_HOME%\packages\SystemManagement\ETL_SM_VI_VMware_VC.ap\source\cmdb_views
System_Management	SM_BSM9_Views.zip	%PMDB_HOME%\packages\SystemManagement\ETL_SystemManagement_PA.ap\source\cmdb_views
Real_User_Monitor	EUM_BSMR.zip	%PMDB_Home%\packages\RUM\RUM.ap\CMDB_View

たとえば、SHOzip ファイルをコピーするには、
%PMDB_HOME%\packages\SystemManagement\ETL_SM_VI_VMWare_VC.ap\source\cmdb_views\SHO_View.zip に移動し、SHO_View.zip ファイルを HP BSM ホストシステムにコピーします。

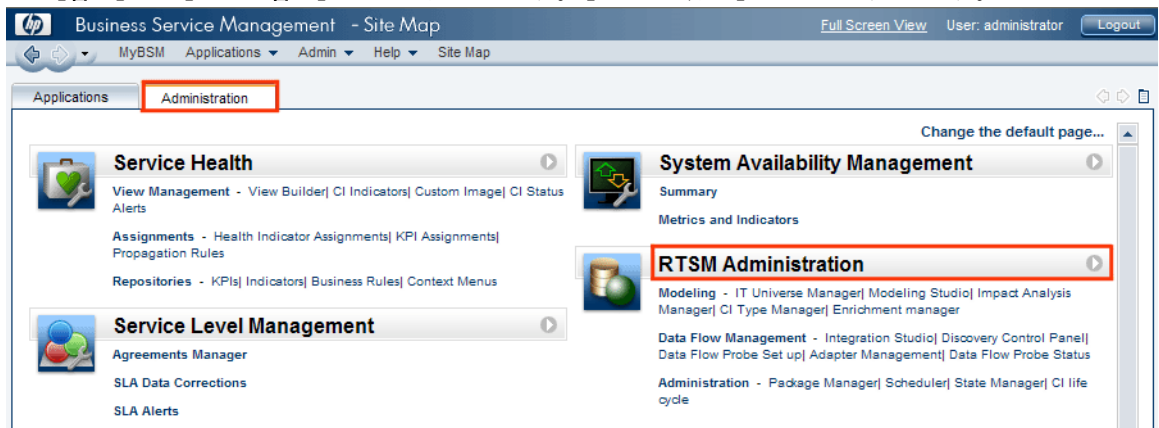
- 4 HP BSM ホストシステムの Web ブラウザーで、次の URL を入力します。

http://<サーバー名>.<ドメイン名>/HPBSM

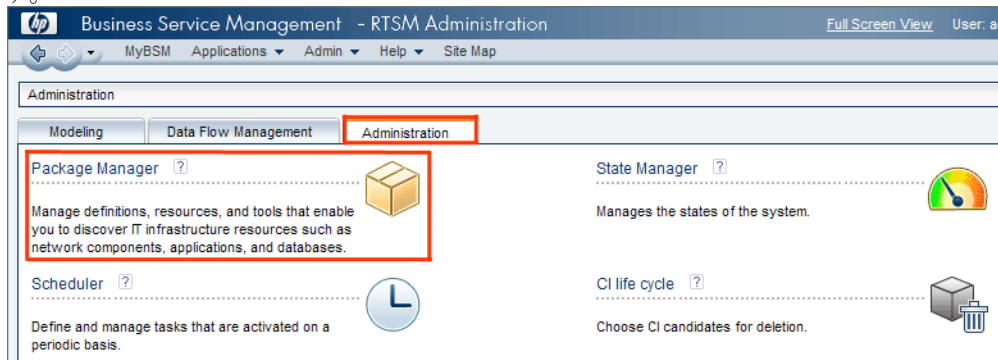
ここでの <サーバー名> は、HP BSM サーバーの名前、<ドメイン名> は、ユーザーネットワーク設定どおりのユーザーのドメインの名前です。

[Business Service Management のログイン] ページが開きます。

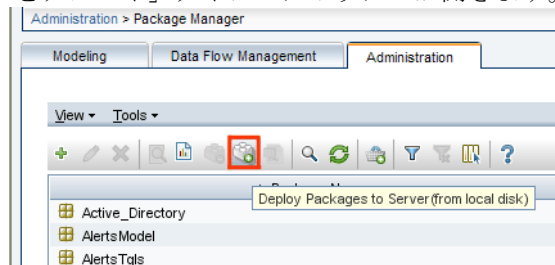
- 5 ログイン名とパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。[Business Service Management - サイトマップ] が開きます。
- 6 [管理] → [RTSM 管理] をクリックします。[RTSM 管理] ページが開きます。



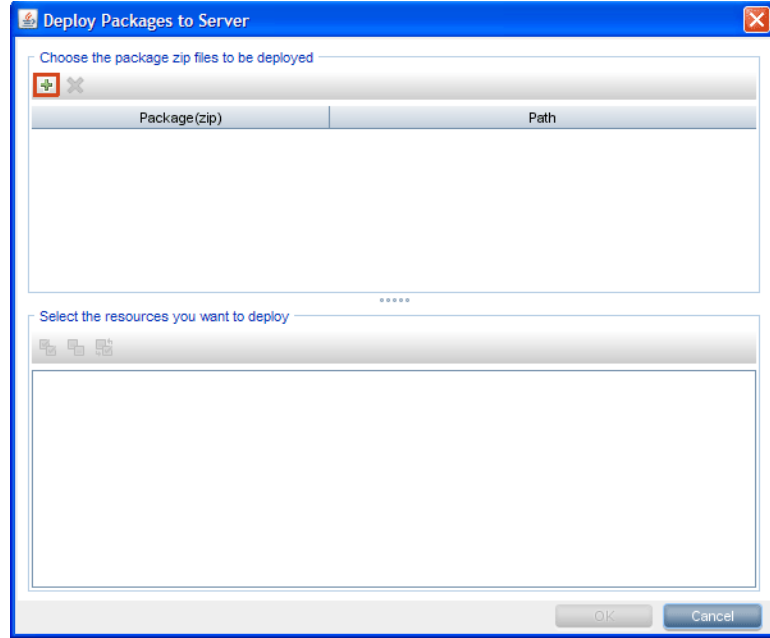
- 7 [管理] → [パッケージマネージャ] をクリックします。[パッケージマネージャ] ページが開きます。



- 8 [サーバにパッケージをデプロイする] (ローカルディスクから) アイコンをクリックします。[サーバにパッケージをデプロイ] ダイアログボックスが開きます。



- 9 [追加] アイコンをクリックします。



[サーバにパッケージをデプロイする](ローカルディスクから)ダイアログボックスが開きます。

- 10 コンテンツパック zip ファイルの場所に移動し、目的のファイルを選択してから、[Open] をクリックします。

[サーバにパッケージをデプロイする] (ローカルディスクから)ダイアログボックスの [デプロイするリソースを選択] の下で、デプロイするTQLビューおよびODBビューを表示および選択することができます。すべてのファイルを選択したことを確認します。

- 11 [デプロイ] をクリックし、コンテンツパックビューをデプロイします。

コンテンツパックの CI 属性の有効化

どのコンテンツパックビューにも、そのコンテンツパックに固有の CI 属性のリストが備えられています。データ収集に必要なCI属性は、デプロイ後の各コンテンツパックビューにおいて自動的に有効になります。

ビジネスニーズに関連した追加情報を収集するための追加の CI 属性を有効にするには、次の手順を実行します。

- 1 Web ブラウザーで、次の URL を入力します。

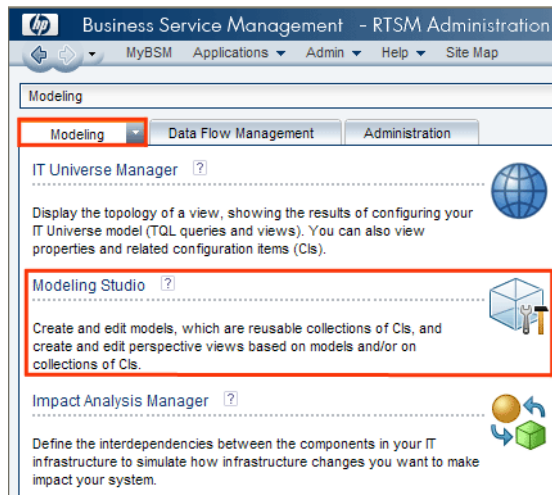
http://<サーバー名>.<ドメイン名>/HPBSM

ここでの <サーバー名> は、HP BSM サーバーの名前、<ドメイン名> は、ユーザーネットワーク設定どおりのユーザーのドメインの名前です。

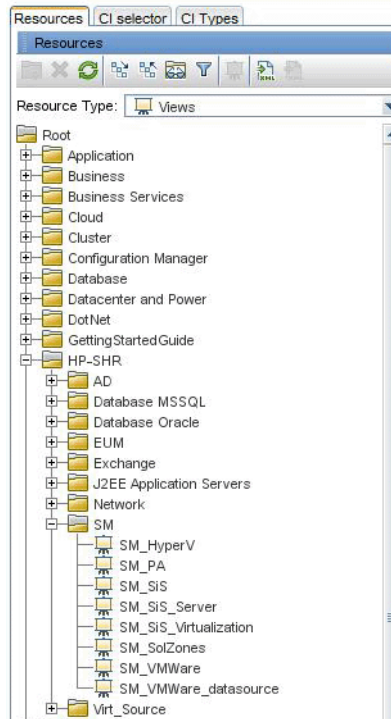
[Business Service Management のログイン] ページが開きます。

- 2 ログイン名とパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。[ビジネスサービス管理 - サイトマップ] が開きます。
- 3 [管理] → [RTSM 管理] をクリックします。[RTSM 管理] ページが開きます。

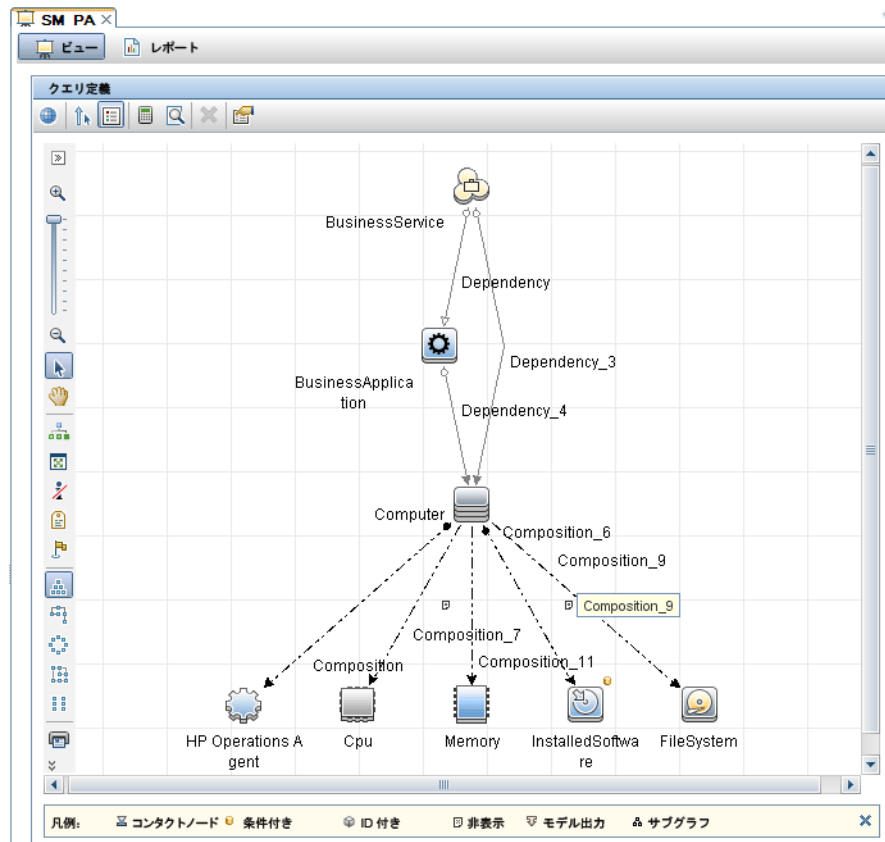
- 4 [モデリング] → [モデリング スタジオ] をクリックします。[モデリング スタジオ] ページが開きます。



- 5 [リソース] ペインで、[HP-SHR] を展開、コンテンツパックのフォルダーを展開して、トポロジビューをダブルクリックして開きます。

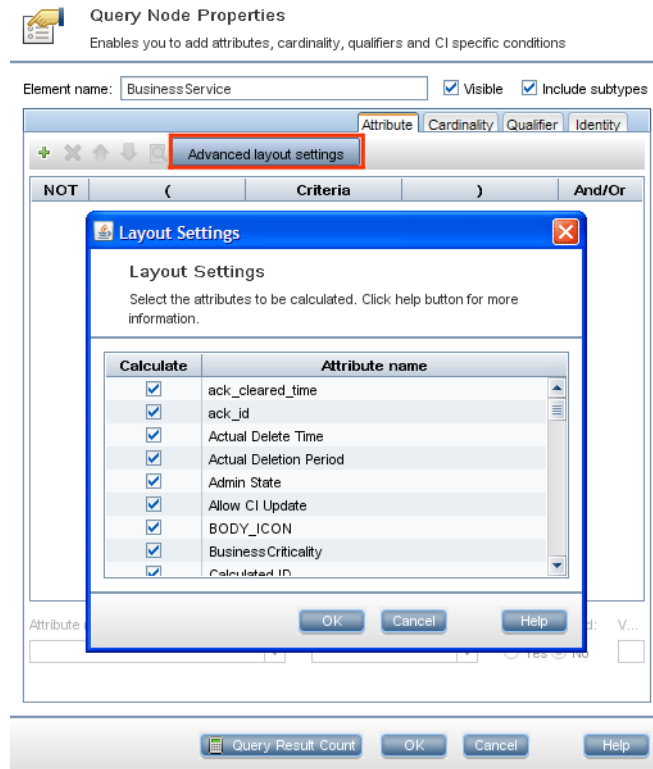


- 6 トポロジーペインで、トポロジー図内の任意のノードを右クリックしてから [クエリ ノードのプロパティ] をクリックして、選択したノードの CI 属性のリストを表示します。



[クエリ ノードプロパティ] ダイアログボックスが開きます。

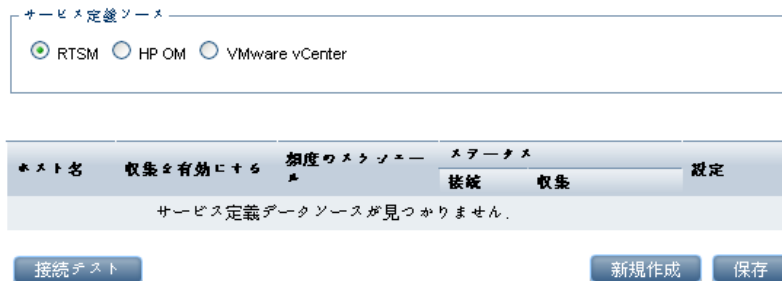
- 7 [詳細レイアウト設定]をクリックします。[レイアウト設定]ダイアログボックスが開きます。有効化する属性を選択してから [OK] をクリックします。



SHO に対して選択したタイプのデプロイメントシナリオに基づいて、コンテンツパックのデプロイが正常に完了しました。

タスク 2: RTSM サービス定義ソースの設定

[トポロジーソースの設定]ページで、RTSM サービス定義ソースを設定し、管理対象環境のトポロジ情報を提供できます。



RTSM サービス定義ソースを設定するには、以下の手順を実施してください。

- 1 [スタート]→[プログラム]→[HP Software]→[SH Optimizer]→[Administration]をクリックします。管理コンソールが開きます。
- 2 ログイン画面で、[ログイン名]フィールドに Administrator と入力してから、[ログイン]をクリックします。
- 3 管理コンソールで、[トポロジーソース]→[サービス定義]をクリックします。[サービス定義]ページが開きます。

- 4 [サービス定義ソース] の下で [RTSM] を選択し、RTSM データソース接続を作成します。



[サービス定義] ページでトポロジーソースを設定した後でトポロジーソースを変更することはできません。

- 5 [新規作成] をクリックします。[接続パラメータ] ダイアログボックスが開きます。
- 6 [接続パラメータ] ダイアログボックスに次の値を入力します。

フィールド	説明
ホスト名	BSM サーバーの IP アドレスまたは FQDN。HP BSM インストールが分散されている場合は、データ処理サーバー (DPS) の名前を [ホスト名] フィールドに入力します。
ポート	RTSM Web サービスに照会するためのポート番号。デフォルトのポート番号は 21212 です。 ポート番号が変更された場合、データベース管理者に詳細を問い合わせてください。
ユーザー名	RTSM Web サービスユーザーの名前。デフォルトのユーザー名は admin です。
パスワード	RTSM Web サービスユーザーのパスワード。デフォルトのパスワードは admin です。



作成できる RTSM データソース接続は 1 つのみです。接続が作成された後、デフォルトでは [新規作成] ボタンは無効になります。この設定は 1 回限りの設定なので、正しい値を入力したことを確認してください。

- 7 [OK] をクリックします。
- 8 [接続テスト] をクリックし、接続をテストします。
- 9 [保存] をクリックします。
- 10 メッセージボックスで、[はい] をクリックします。[正常に保存しました] メッセージが [情報] メッセージパネルに表示されます。
RTSM サービス定義ソースの設定に関する詳細は、『管理者オンラインヘルプ』のトピック「エンタープライズトポロジーの管理」を参照してください。
- 11 [次へ] をクリックします。[サマリー] ページが開きます。
- 12 [完了] をクリックしてインストール後の設定作業を完了します。[デプロイメントマネージャ] ページが開きます。
- 13 管理コンソールを閉じてシステムを再起動し、HP PMDB Platform Collection Service と HP PMDB Platform Message Broker Service の依存関係が有効になるようにします。

システムを再起動し終わったら、必要なコンテンツパックのインストールに進むことができます。詳細については、41 ページ「コンテンツパックのデプロイ」を参照してください。



VMware vCenter で仮想化データを収集したい場合は、コンテンツパックのインストール後に VMware vCenter をデータ収集用に設定する必要があります。VMware vCenter をデータ収集用に設定するステップについては、43 ページ「VMware vCenter のデータ収集用の設定」を参照してください。

SHO 用の HPOM トポロジーソースの設定

HPOM デプロイメントシナリオでは、HPOM データベースが管理対象ノードのトポロジー情報のソースになります。SHO は、HPOM for Windows および HPOM for Unix、HPOM for Linux、および HPOM for Solaris のデータベースからのデータ収集をサポートします。

トポロジー関係は、ノードグループ、ノード、およびノードリソースに限定されます。グループ情報は、HPOM ノードグループから取得されます。ノードリソース情報は、コンテンツパックで定義されているルールに基づいて SHO によって検出されます。

前提条件

HPOM トポロジーソース接続を設定する前に、環境において、ドメインへのインストールまたはスタンドアロンシステムとしてのインストールのどちらの方法で HPOM がインストールされているかに応じて、該当する事前に必要な作業を実行する必要があります。

ドメインユーザー用の SHO サービスの設定

ローカルアカウントではなくドメイン管理者アカウントを使って SHO がシステムにインストールされている場合、HPOM デプロイメントシナリオでは PMDB Platform Service および PMDB Platform Collection Service は始動しません。したがって、HPOM サービス定義ソース接続を設定する前に、ドメインユーザー用のサービスを設定する必要があります。

ドメインアカウント用の PMDB Platform Service の設定

次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。
- 2 services.msc を [名前] フィールドに入力してから、[ENTER] キーを押します。[サービス] ウィンドウが開きます。
- 3 右側のペインで、[プラットフォーム] を右クリックし、[停止] をクリックします。
- 4 SHR を右クリックしてから [プロパティ] をクリックします。[SHR のプロパティ] ダイアログボックスが開きます。
- 5 [ログオン] タブで、[アカウント] を選択します。
- 6 ドメインユーザー名をブランクフィールドに入力します。たとえば、DOMAIN ドメインのユーザーが Administrator という名前である場合、このフィールドに DOMAIN¥Administrator と入力します。
- 7 ユーザーパスワードを [パスワード] フィールドに入力します。
- 8 パスワードを [パスワードの確認入力] フィールドに再度入力します。
- 9 [適用] をクリックし、[OK] をクリックします。
- 10 右側のペインで、[プラットフォーム] を右クリックし、[開始] をクリックします。

ドメインアカウント用の PMDB Platform Collection Service の設定

次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。
- 2 services.msc を [名前] フィールドに入力してから、[ENTER] キーを押します。[サービス] ウィンドウが開きます。
- 3 右側のペインで、[Platform Collection Service] を右クリックしてから [停止] をクリックします。

- 4 [Platform Collection Service] を右クリックしてから [プロパティ] をクリックします。[PMDB Platform Collection Service のプロパティ] ダイアログボックスが開きます。
- 5 [ログオン] タブで、[アカウント] を選択します。
- 6 ドメインユーザー名をブランクフィールドに入力します。
- 7 ユーザーパスワードを [パスワード] フィールドに入力します。
- 8 パスワードを [パスワードの確認入力] フィールドに再度入力します。
- 9 [適用] をクリックし、[OK] をクリックします。
- 10 右側のペインで、[PMDB Platform Collection Service] を右クリックしてから [開始] をクリックします。

▶ 上記の手順が必須なのは、製品をドメインユーザー用にインストールする場合のみです。製品をローカルユーザー用にインストールする場合は、上記の手順は不要です。

設定手順を実行し終わったら、HPOM サービス定義接続の設定に進みます。

HPOM サービス定義ソースの設定

管理コンソールを使用して、HPOM サービス定義ソース接続を設定し、トポロジー情報を提供します。

▶ HPOM for Windows とともにインストールされるデフォルトの SQL Server Express はリモート接続を受け入れません。

次の手順を実行します。

- 1 [スタート]→[プログラム]→[HP Software]→[SH Optimizer]→[Administration]をクリックします。管理コンソールが開きます。
- 2 ログイン画面で、[ログイン名] フィールドに Administrator と入力してから、[ログイン] をクリックします。
- 3 管理コンソールで、[トポロジーソース]→[サービス定義] をクリックします。[サービス定義ソース] ページが開きます。
- 4 [サービス定義ソース] の下で [HP OM] を選択し、HPOM データソース接続を作成します。

サービス定義ソース

RTSM HP OM VMware vCenter

*ネーム	収集の有効性	頻度のメニュー	メタデータ		設定
			接続	収集	
サービス定義データソースが見つかりません。					

接続テスト

新規作成

保存

⚠ [サービス定義] ページでトポロジーソースを設定した後でトポロジーソースを変更することはできません。

- 5 [新規作成] をクリックします。[接続パラメータ] ダイアログボックスが開きます。

6 [接続パラメータ] ダイアログボックスに次の値を入力します。



認証にデータベースの方法を使用して HPOM データベースサーバーに接続している場合は、「openview」データベースの SELECT 権限と CONNECT 権限を持つユーザーの詳細を指定する必要があります。

フィールド	説明
データソースのタイプ	環境で設定されているHPOMのタイプを選択します。オプションには次のものがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • HPOM for Windows • HPOM for Unix • HPOM for Linux • HPOM for Solaris
データベースタイプ	選択するデータソースタイプに応じて、データベースタイプが自動的に選択されます。 <ul style="list-style-type: none"> • HPOM for Windows データソースタイプの場合、データベースタイプは MSSQL です。 • HPOM for Unix、HPOM for Linux、HPOM for Solaris の場合、データベースタイプは Oracle です。
ホスト名	HPOM データベースサーバーの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
データベースインスタンス	データソース内のデータベースインスタンスのシステム識別子 (SID)。デフォルトのデータベースインスタンスは OVOPS です。
データベース名	HPOM データベースの名前。このフィールドは、データソースタイプとして HPOM for Windows が選択された場合にのみ表示されます。データベースの名前は openview です。
ポート	HPOM データベースサーバーに照会するためのポート番号。 OVOPS などの、データベースインスタンスのポート番号をチェックするには、37 ページ「 HPOM サーバーのポート番号のチェック 」を参照してください。
Windows 認証	HPOM データベースにアクセスするための Windows 認証を有効にするためのオプション。ユーザーは、データベースをホスティングしている Windows システムのアクセス資格情報と同じ情報を使用して HPOM にアクセスすることができます。このオプションは、データソースタイプとして HPOM for Windows が選択された場合にのみ表示されます。
ユーザー名	HPOM データベースユーザーの名前。HPOM for Windows データソースタイプの場合に、[Windows 認証] オプションを選択すると、このフィールドは無効になって空になります。 HPOM データベースサーバーの新規ユーザーアカウント作成については、67 ページ「 HPOM データベースサーバーでのデータベースユーザーアカウントの作成 」を参照してください。
パスワード	HPOM データベースユーザーのパスワード。HPOM for Windows データソースタイプの場合に、[Windows 認証] オプションを選択すると、このフィールドは無効になって空になります。

7 [OK] をクリックします。

- 8 [接続テスト] をクリックし、接続をテストします。
- 9 [保存] をクリックします。
- 10 メッセージボックスで、[はい] をクリックします。[正常に保存しました] メッセージが [情報] メッセージパネルに表示されます。

上記の手順 3 ～ 6 を実行すれば、追加の HPOM データソースを設定できます。

▶ 非ドメインホストからデータを収集するには、そのようなホストに対して HPOM 管理者が適切な DNS 解決を行うことにより、ドメインにインストールされている SHO からそのホストに到達できるようにする必要があります。

- 11 1つ以上のホストの HPOM データ収集スケジュールを変更するには、[HP OM同期をスケジュールに指定する] の下で、[時間] ボックスに 1 ～ 24 時間の同期時間を指定します。
- 12 [適用] をクリックします。
- 13 [保存] をクリックします。[正常に保存しました] メッセージが [情報] メッセージパネルに表示されます。

HPOM サービス定義ソースの設定に関する詳細は、『管理者オンラインヘルプ』のトピック「エンタープライズトポロジーの管理」を参照してください。

HPOM サーバーのポート番号のチェック

SQL Server が HPOM で使用するデータベースタイプである場合、67 ページ「HPOM データベースサーバーでのデータベースユーザーアカウントの作成」の手順 3 を参照して、HPOM サーバーのポート番号をチェックしてください。

Oracle が HPOM におけるデータベースタイプの場合、以下の手順を実行して、ポート番号をチェックしてください。

- 1 Oracle サーバーにログオンします。
- 2 \$ORACLE_HOME/network/admin フォルダーまたは %ORACLE_HOME%\NET80\Admin フォルダーに移動します。
- 3 listener.ora ファイルを開きます。HPOM サーバーのポート番号はこのファイルに一覧表示されています。

HPOM トポロジーソースの設定が完了したら、PMDB Platform 設定ウィザードで [次へ] をクリックします。[サマリー] ページが開きます。[完了] をクリックしてインストール後の設定作業を完了します。[デプロイメントマネージャ] ページが開きます。

管理コンソールを閉じてシステムを再起動し、PMDB Platform Collection Service と PMDB Platform Message Broker Service の依存関係が有効になるようにします。

システムを再起動し終わったら、必要なコンテンツパックのインストールに進むことができます。

▶ VMware vCenter で仮想化データを収集したい場合は、コンテンツパックのインストール後に VMware vCenter をデータ収集用に設定する必要があります。VMware vCenter をデータ収集用に設定するステップについては、43 ページ「VMware vCenter のデータ収集用の設定」を参照してください。

SHO 用の VMware vCenter トポロジーソースの設定

次の手順を実行します。


- 1 [サービス定義ソース]の下で[VMware vCenter]を選択し、VMware vCenterデータソース接続を作成します。

サービス定義ソース

RTSM
 HP OM
 VMware vCenter


ホスト名	収集を有効にする	優先度のメニュー	ステータス	設定
			接続	収集

サービス定義データソースが見つかりません。

 [サービス定義] ページでトポロジーソースを設定した後でトポロジーソースを変更することはできません。

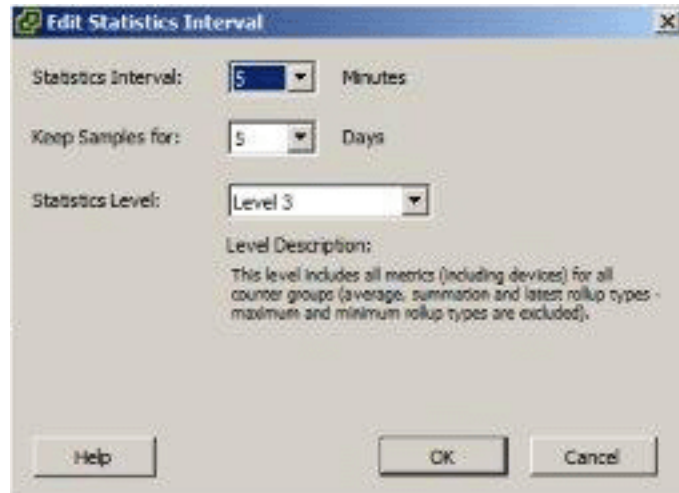
- 2 [新規作成] をクリックします。[接続パラメータ] ダイアログボックスが開きます。
- 3 [接続パラメータ] ダイアログボックスに次の値を入力します。

フィールド	説明
ホスト名	VMware vCenter データベースサーバーの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
ユーザー名	VMware vCenter にアクセスするためのユーザー名。
パスワード	VMware vCenter ユーザーのパスワード。

 トポロジー収集用に設定した VMware vCenter ソースは、SHO によって自動的にパフォーマンスデータ収集用に設定されます。

- 4 [OK] をクリックします。
- 5 [接続テスト] をクリックします。
- 6 [保存] をクリックします。
- 7 メッセージボックスで、[はい] をクリックします。[正常に保存しました] メッセージが [情報] メッセージパネルに表示されます。
- 8 VMware vCenter Server で、次の権限をユーザーに付与します。
 - データストア権限を [データストアの参照] に設定します。
 - データストア権限を [低レベルのファイル操作] に設定します。
 - セッション権限を [セッションの確認] に設定します。
- 9 VMware vCenter Server で、統計レベルを設定します。
 - a vSphere クライアントで、[管理] → [vCenter Server 設定] をクリックします。

- b [vCenter Server 設定] ウィンドウで [統計情報] をクリックします。
[統計間隔] ページに、vCenter サーバー 統計が保存される間隔、統計が保存される期間、統計レベルが表示されます。
- c [編集] をクリックします。
- d [統計間隔の編集] ウィンドウで、ドロップダウンリストから [統計レベル] を設定します。選択した統計レベルについては、[統計間隔の編集] ウィンドウに当該レベルで収集される統計タイプが表示されます。



▶ 最小統計レベルは 2 に設定する必要があります。

▶ 複数の VMware vCenters をトポロジー収集に使用する場合は、作成したい各 VMware vCenter 収集ごとに上記の手順 2-9 を繰り返してください。



6 コンテンツパックのデプロイ

必要なコンテンツパックをデプロイする場合は、SHOの管理コンソールを通して、デプロイメントマネージャユーティリティが提供されます。このWebベースのインタフェースでは、ドメイン、データを収集するデータソースアプリケーション、およびデータ収集用にインストールする特定のコンテンツパックコンポーネントに基づいてコンテンツパックが配置されるため、デプロイメントプロセスが簡略化されます。コンテンツパックが分類される各種コンポーネントについては、76ページ「コンテンツパックのコンポーネント」を参照してください。

トポロジソースが設定されると、デプロイメントマネージャは、コンテンツパックコンポーネントのリストをフィルタリングし、サポートされるデプロイメントシナリオにデプロイ可能なコンポーネントのみを表示します。

コンテンツパックのデプロイ

コンテンツパックをデプロイするには、次の手順を実行します。

- 1 管理コンソールを開きます。
管理コンソールに直接アクセスするには、Webブラウザに次のアドレスを入力します。
http://<サーバー名>.<ドメイン名>:21411/です。ここでは、<サーバー名>はSHOをインストールしたホストシステムの名前であり、<ドメイン名>は、ネットワーク設定に基づくドメインの名前です。管理コンソールが開きます。
- 2 有効なユーザー名とパスワードを入力します。[ログイン]をクリックします。
ホームページが開きます。
 デフォルトのユーザー名は **administrator** です。[パスワード] フィールドは空白のままにしてください。
- 3 左のペインで、[管理]をクリックし、[デプロイメントマネージャ]をクリックします。[デプロイメントマネージャ] ページが開きます。
 SHRがシステムにインストール済みの場合は、VirtualEnvPerf_ETL_VMWare_PerformanceAgentコンテンツパックを削除します。これにより、パフォーマンスデータはVMware vCenterからのみ収集されるようになります。

デプロイメントシナリオに応じて、以下のコンテンツパックをインストールします。

<p>共通コンテンツパック (すべてのデプロイメントシナリオでインストール)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Core_Domain • SHO • VirtualEnvPerf_Domain • VirtualEnvPerf_Domain_VMWare • SysPerf_Domain • vCenter Collector ContentPack
<p>RTSM デプロイメントシナリオ</p>	<ul style="list-style-type: none"> • SysPerf_ETL_PerformanceAgent これはオプションのコンテンツパックです。スタンドアロンホストのデータを収集したい場合にこのコンテンツパックをデプロイします。 • VirtualEnvPerf_ETL_HyperV_PerformanceAgent これはオプションのコンテンツパックです。HyperVホストのデータを収集したい場合にこのコンテンツパックをデプロイします。
<p>HPOM デプロイメントシナリオ</p>	<ul style="list-style-type: none"> • SysPerf_ETL_PerformanceAgent これはオプションのコンテンツパックです。スタンドアロンホストのデータを収集したい場合にこのコンテンツパックをデプロイします。 • VirtualEnvPerf_ETL_HyperV_PerformanceAgent これはオプションのコンテンツパックです。HyperVホストのデータを収集したい場合にこのコンテンツパックをデプロイします。
<p>VMware vCenter デプロイメントシナリオ</p>	<ul style="list-style-type: none"> • これ以外のコンテンツパックをインストールする必要はありません。

選択したコンテンツパックの一覧を確認します。

4 **[配布]** をクリックします。

コンテンツパックは、デフォルトのコンテンツパックに続いて依存コンテンツパックと、1つずつインストールされます。

[ステータス]列に、インストールの進捗状況が表示されます。**[デプロイメントマネージャ]**ページを更新して、最新のステータスを表示します。

インストールが完了すると、各コンテンツパックのコンポーネントの **[ステータス]** 列に **[Installation Successful]** と表示されます。

7 データ収集のための SHO の設定

コンテンツパックをインストールした後、データ収集のために SHO を設定する必要があります。

- VMware vCenter で RTSM または HPOM デプロイメントシナリオの仮想化データを収集したい場合は、データを収集する VMware vCenter データソースを追加する必要があります。RTSM または HPOM デプロイメントシナリオで VMware vCenter をデータ収集用に設定するステップについては、[VMware vCenter のデータ収集用の設定](#)を参照してください。
 - ▶ **VMware vCenter デプロイメントシナリオ**では、トポロジー収集用に設定した VMware vCenter ソースは、SHO によって自動的にパフォーマンスデータ収集用に設定されます。
- VMware vCenter をデータ収集用に修正するステップについては、[VMware vCenter のデータ収集用の修正](#)を参照してください。

VMware vCenter のデータ収集用の設定

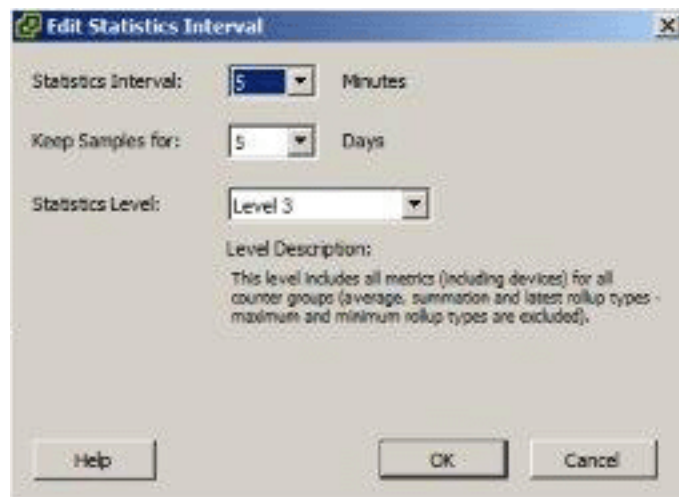
VMware vCenter データソースを追加するには、以下の手順を実施してください。

- 管理コンソールで、**[収集設定]** → **[VMware vCenter データソース]** をクリックします。**[VMware vCenter データソース]** ページが開きます。
- [新規作成]** をクリックします。**[接続パラメータ]** ダイアログボックスが開きます。
- [接続パラメータ]** ダイアログボックスに次の値を入力します。

フィールド	説明
ホスト名	VMware vCenter データベースサーバーの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
ユーザー名	VMware vCenter にアクセスするための有効なユーザー名。
パスワード	VMware vCenter にアクセスするための有効なパスワード。

- ホスト名の横のチェックボックスを選択してから、**[接続テスト]** をクリックして接続をテストします。
 - ▶ 5つ以上のホストの VMware vCenter データ収集スケジュールを変更するには、**[頻度のスケジュール]** 列で、**[分]** ボックスに 1 ~ 60 分の収集時間を指定します。
- [保存]** をクリックします。**[正常に保存しました]** メッセージが **[情報]** メッセージパネルに表示されます。
- VMware vCenter Server で、次の権限をユーザーに付与します。
 - データストア権限を **[データストアの参照]** に設定します。
 - データストア権限を **[低レベルのファイル操作]** に設定します。

- セッション権限を [セッションの確認] に設定します。
- 7 VMware vCenter Server で、統計レベルを設定します。
- a vSphere クライアントで、[管理] → [vCenter Server 設定] をクリックします。
 - b [vCenter Server 設定] ウィンドウで [統計情報] をクリックします。
[統計間隔] ページに、vCenter サーバー統計が保存される間隔、統計が保存される期間、統計レベルが表示されます。
 - c [編集] をクリックします。
 - d [統計間隔の編集] ウィンドウで、ドロップダウンリストから [統計レベル] を設定します。選択した統計レベルについては、[統計間隔の編集] ウィンドウに当該レベルで収集される統計タイプが表示されます。



▶ 最小統計レベルは 2 に設定する必要があります。

▶ 複数の VMware vCenters をトポロジー収集に使用する場合は、作成したい各 VMware vCenter 収集ごとに上記の手順 2-9 を繰り返してください。

VMware vCenter のデータ収集用の修正

VMware vCenter デプロイメントシナリオで VMware vCenter データ収集を修正するには、以下の手順を実施してください。

- 1 管理コンソールで、**[収集設定]** → **[VMware vCenter データソース]** をクリックします。**[VMware vCenter データソース]** ページが開きます。

	ホスト名	収集を有効にする	頻度のスケジュール	接続	設定
<input type="checkbox"/>	172.18.66.62	<input checked="" type="checkbox"/>	60分	✓	設定
<input type="checkbox"/>	172.18.66.12	<input checked="" type="checkbox"/>	60分	✗	設定
<input type="checkbox"/>	172.18.66.34	<input type="checkbox"/>	60分	✗	設定

- 2 **[設定]** をクリックします。**[接続パラメータ]** ダイアログボックスが開きます。
- 3 **[接続パラメータ]** ダイアログボックスに次の値を入力します。

フィールド	説明
ホスト名	VMware vCenter データベースサーバーの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
ユーザー名	VMware vCenter にアクセスするための有効なユーザー名。
パスワード	VMware vCenter にアクセスするための有効なパスワード。

- 4 ホスト名の横のチェックボックスを選択してから、**[接続テスト]** をクリックして接続をテストします。
 - ▶ 5つ以上のホストの VMware vCenter データ収集スケジュールを変更するには、**[頻度のスケジュール]** 列で、**[分]** ボックスに 1 ~ 60 分の収集時間を指定します。
- 5 **[保存]** をクリックします。**[正常に保存しました]** メッセージが**[情報]** メッセージパネルに表示されます。

VMware vCenter デプロイメントシナリオにおけるデータ収集の無効化

[VMware vCenter データソース]ページからVMware vCenterによってデータ収集を無効化した場合は、[トポロジーソース]→[サービス定義]ページから手動で同じVMware vCenter Serverのトポロジー収集を無効化する必要があります。

サービス定義

サービス定義ソース

サービス定義ソース

RTSM HP OM VMware vCenter

VMware vCenter同期スケジュールに指定する

スケジュールの週 60 分 適用

	ホスト名	収集を有効にする	接続	設定
<input checked="" type="checkbox"/>	172.18.66.62	<input checked="" type="checkbox"/>	✓	設定
<input checked="" type="checkbox"/>	172.18.66.12	<input checked="" type="checkbox"/>	✗	設定
<input type="checkbox"/>	172.18.66.34	<input checked="" type="checkbox"/>	✗	設定

接続テスト

新規作成 保存

8 SHO データベースへの SHO Web サーバー 接続の設定

SHO サーバーをデータベースに接続するには、次の手順を実行します。

- 1 SHO ユーザーのインターフェースに進むには、Web ブラウザに以下の URL を入力します。
http://<サーバー名>.<ドメイン名>:8081/SHO/ です。ここでは、<サーバー名>は SHO をインストールしたホストシステムの名前であり、<ドメイン名>は、ネットワーク設定に基づくドメインの名前です。SHO ユーザーのインターフェースが開きます。
- 2 有効なログイン資格情報を入力し、**[ログイン]** をクリックします。**[DB 設定]** ウィンドウが開きます。
- 3 SHO データベース詳細を定義します。

フィールド	説明
Host	完全修飾 SHO データベースのホスト名。
ポート	データベースを照合するためのポート番号。デフォルトのポート番号は21424です。
ユーザー名	データベースにアクセスするためのユーザー名。SHOを設定する際にSHOにこのユーザーを作成する必要があります。
パスワード	データベースにアクセスするためのパスワード。

[テスト] をクリックし、正しいデータベース詳細が定義されたかどうかをチェックします。

- 4 **[保存]** をクリックします。
- 5 このページで変更を行った後、**[SH Optimizer の再起動]** をクリックします。これにより、HP OpenView Tomcat サーバーでホスティングされる SHO アプリケーションサーバーが再起動します。

9 ライセンス取得

SHOをインストールして構成した後、SHOのライセンスを取得してインストールする必要があります。

永久的なライセンスの取得

SHOの永久的なライセンスを取得するには、次の手順を実施します。

- 1 SHO ユーザーインターフェースにログインします。
 - 2 ユーザーインターフェースのメニューバーで、[設定] → [一般] をクリックします。
 - 3 [設定ビュー] ページで、[ライセンス] タブをクリックします。
 - 4 [ライセンス取得] タブで、[HP Password Center の起動] をクリックします。
[ソフトウェアの HP ライセンス取得] ページが開きます。
- ▶ SHO ライセンスの期限切れの場合は、SHO ユーザーインターフェースにアクセスできません。このシナリオでは、Web ブラウザに次の URL を入力して [ソフトウェアの HP ライセンス取得] ページにアクセスしてください。
<https://h30580.www3.hp.com/poeticWeb/portalintegration/hppWelcome.htm>
- 5 [よろこそ] の下にある [新規ライセンスの生成] をクリックします。
 - 6 自分のユーザーID とパスワードを使用して、HP パスポートにログオンします。アカウントを持っていない場合は、操作を続ける前にアカウントを作成する必要があります。注文番号ページが開きます。
 - 7 [Entitlement Order number] フィールドに注文番号を入力し、[移動] をクリックします。
[製品の選択] ページが開きます。
 - 8 [PERM] を選択し、[アクティブ化] をクリックします。
[ライセンスの取得] ページが開きます。
 - 9 [ライセンス所有者の検索または作成] を選択し、[ライセンス所有者の電子メールアドレス] フィールドに電子メールアドレスを入力します。
 - 10 SHO ホストシステムの IP アドレスを入力し、[次へ] をクリックします。
[ライセンス所有者の作成] ページが開きます。
 - 11 次のライセンス所有者情報を入力します。

フィールド	説明
ライセンス所有者 (エンドユーザー) 情報の作成	ライセンス所有者の名前、電話番号、および電子メールアドレス。
会社の電子メールアドレス	ライセンス所有者の会社のドメイン名。
メールアドレス	ライセンス所有者のメールアドレス。
ライセンス所有者のプライバシーポリシー (オプション)	ライセンス所有者のプライバシーポリシーのオプションの設定。

12 [次へ] をクリックします。
[トランザクション要約] ページが開きます。

13 要約を確認し、[次へ] をクリックします。
[ライセンス証明書] ページが開きます。

14 ライセンス証明書の情報を確認し、ライセンスをシステムに保存します。

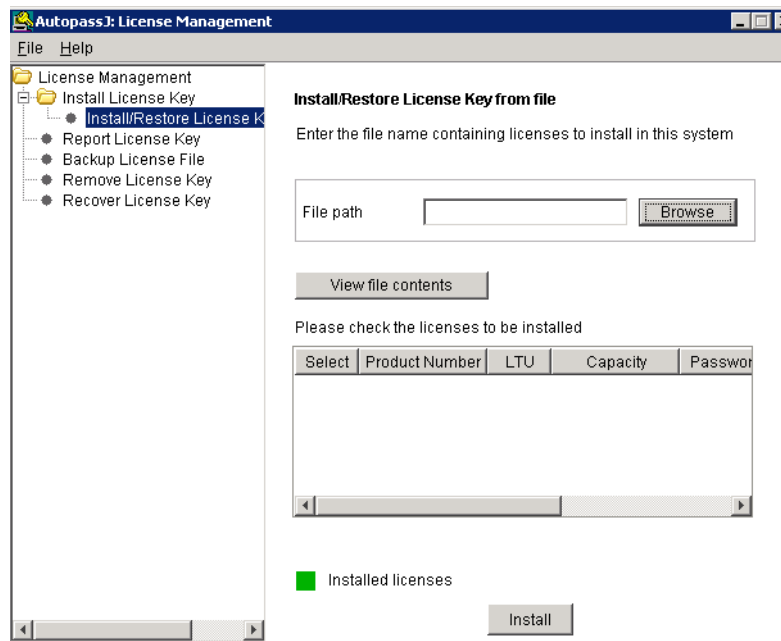
永久的なライセンスを取得したら、ライセンスキーを含む電子メールを受け取ります。

受け取った電子メールからライセンスキーをコピーし、それをテキスト (.txt) ファイルに貼り付けます。ファイルを保存します。

SHO の永久的なライセンスのインストール

永久的なライセンスをインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 SHO をインストールしたシステムに管理者権限でログオンします。
- 2 [スタート]→[プログラム]→[HP Software]→[SH Optimizer]→[License Manager]をクリックします。[AutopassJ: ライセンス管理] ウィンドウが開きます。



- 3 [ファイルからのライセンスキーのインストール/復元] ページの [参照] をクリックします。
- 4 保存済みテキストファイルの場所へ移動し、ファイルを選択して [開く] をクリックします。
- 5 [ファイルの内容の表示] をクリックします。ライセンスが下のボックスに表示されます。
- 6 インストールするライセンスを選択し、[インストール] をクリックします。

10 SHO セットアップの検証

SHOサーバーをインストールし、さまざまなデータソースからデータを収集するようにSHOを構成した後、製品が正しく稼働することを検証できます。

この章は、インストールの正常完了を検証するために実行できる特定の検証タスクを取り上げています。SHOをインストールして構成した後、少なくとも3時間待ってから、次の検証タスクを実行します。

<input type="checkbox"/> SHOサービスが実行されているかどうかをチェックします。	52 ページ「 SHO サービスのチェック 」を参照してください。
<input type="checkbox"/> SHOサーバーがSHOデータベースに接続されているかどうかをチェックします。	53 ページ「 SHO データベースのチェック 」を参照してください。
<input type="checkbox"/> SHOがトポロジーデータを収集するよう適切に設定されているかどうかをチェックします。	55 ページ「 トポロジ収集のステータスのチェック 」を参照してください。
<input type="checkbox"/> すべてのコンテンツパックが正しくインストールされているかどうかをチェックします。	55 ページ「 インストールされたコンテンツパックのチェック 」を参照してください。
<input type="checkbox"/> インストールされたコンテンツパックのストリームステータスをチェックします。	56 ページ「 コンテンツパックのワークフローストリームステータスのチェック 」を参照してください。

SHO サービスのチェック


SHO データベースサービスも含め、SHO サービスが稼働するかどうかをチェックする必要があります。

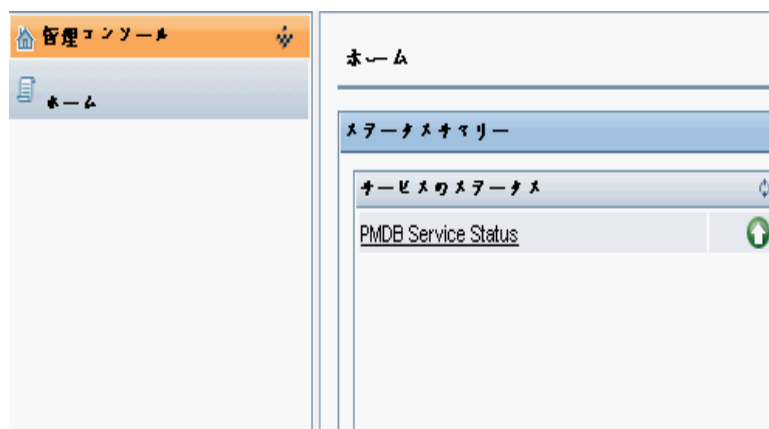
次のサービスが実行されているかどうかをチェックします。

- HP_PMDB_Platform_Administrator
- HP_PMDB_Platform_Collection
- HP_PMDB_Platform_DB_Logger
- HP_PMDB_Platform_IM
- HP_PMDB_Platform_Message_Broker
- HP_PMDB_Platform_PostgreSQL
- HP_PMDB_Platform_Sybase
- HP_PMDB_Platform_Timer
- HP Openview Tomcat(B) Servlet Container Service

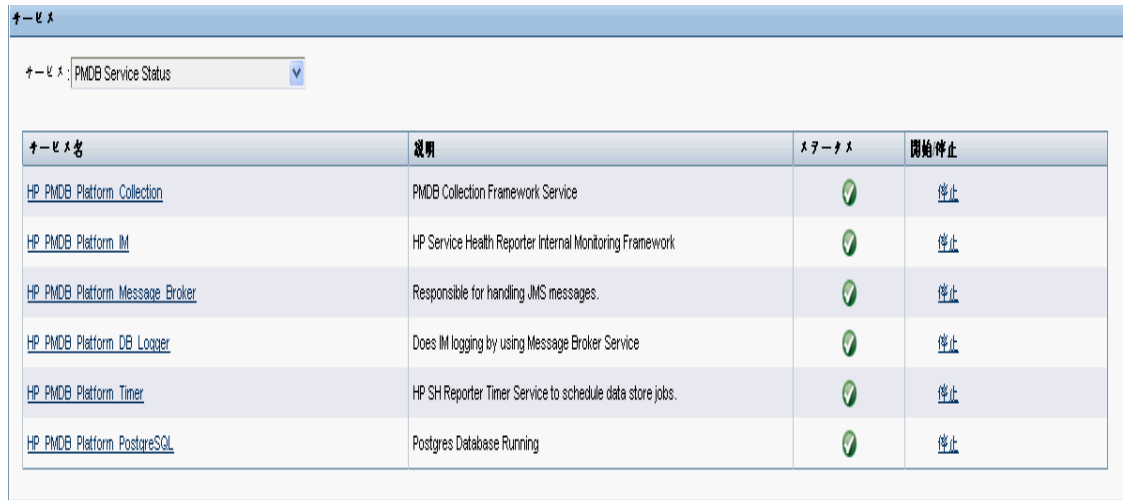
管理コンソールのサービスをチェックするには、以下の手順を実施してください。

- 1 [スタート]→[プログラム]→[HP Software]→[SH Optimizer]→[Administration]をクリックして管理コンソールを開きます。
- 2 ログイン画面にユーザーの資格情報を入力し、[ログイン]をクリックします。プラットフォームホームページが開きます。
- 3 ホームページの [サービスのステータス] セクションで、SHO サービスのステータスを確認します。

 アイコンは、サービスが稼働中であることを示します。



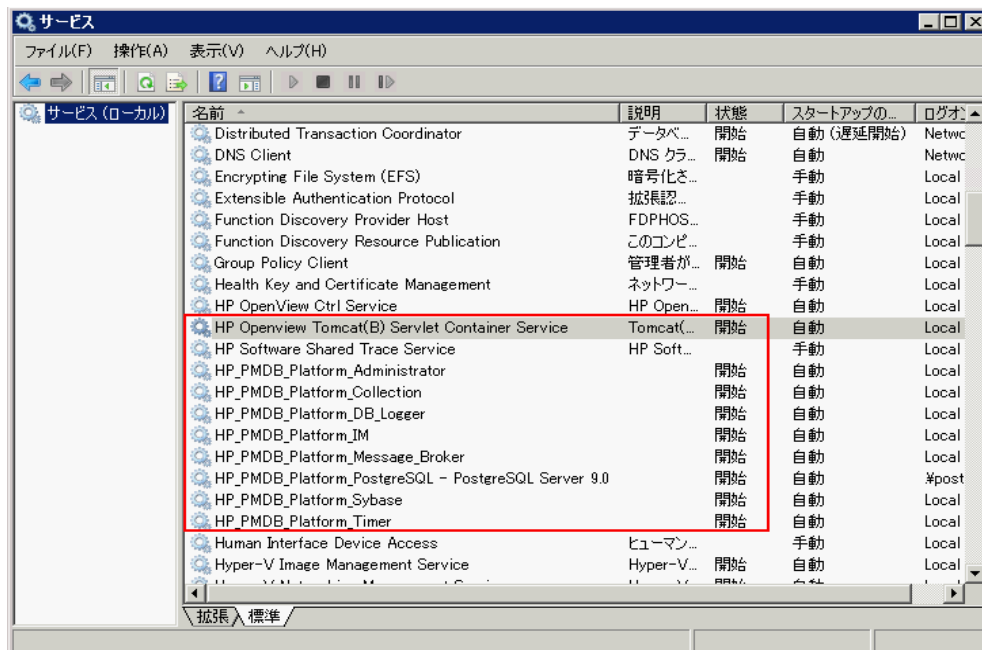
- 4 [PMDB サービスのステータス]ハイパーリンクをクリックし、個々のサービスとそれぞれのステータスを表示します。[サービス] ページが開きます。



サービス名	説明	ステータス	開始/停止
HP PMDB Platform Collection	PMDB Collection Framework Service	🟢	停止
HP PMDB Platform IM	HP Service Health Reporter Internal Monitoring Framework	🟢	停止
HP PMDB Platform Message Broker	Responsible for handling JMS messages.	🟢	停止
HP PMDB Platform DB Logger	Does IM logging by using Message Broker Service	🟢	停止
HP PMDB Platform Timer	HP SH Reporter Timer Service to schedule data store jobs.	🟢	停止
HP PMDB Platform PostgreSQL	Postgres Database Running	🟢	停止

または、次の手順を実行して、[サービス] ウィンドウでサービスをチェックすることもできます。

- [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。
- services.msc を [名前] フィールドに入力してから、**ENTER** キーを押します。[サービス] ウィンドウが開きます。
- 右のペインに、SHO サービスのステータスが示されます。




SHO データベースのチェック

SHO サービスをチェックし終わったら、インストール後の設定フェーズで作成したデータベースが存在しているかどうかチェックすることができます。

管理コンソールで、データベースのステータスをチェックできます。

- 1 [スタート]→[プログラム]→[HP Software]→[SH Optimizer]→[Administration]をクリックして管理コンソールを開きます。
- 2 ログイン画面にユーザーの資格情報を入力し、[ログイン]をクリックします。管理コンソールホームページが開きます。
- 3 ホームページの[データベースのステータス]セクションで、SHO データベースのステータスを確認します。

データベースのステータス	
ステータス	
データベースタイプ	sybase
ホスト名	localhost
サーバー名	<u>localhost</u>
ポート	21424
ユーザー名	pmdb_admin
サイズ	1,568 MB

- 4 左のペインで[内部監視]→[データベースの監視]をクリックし、データベースのその他の情報を表示します。[データベースの監視] ページが開きます。
このページで、データベースの接続ステータス、可用性、および領域使用量などの詳細情報を確認できます。

SHO データベースライセンスのタイプの確認

Intel EM64T プロセッサを搭載しているシステムにSHO データベースがインストールされている場合は、pmdb.lmp ファイル内の SHO データベースライセンスのタイプを確認する必要があります。ライセンスのタイプが OEM CPU ライセンスではない場合、1 か月後に SHO データベースライセンスが期限切れになりデータベースの機能が停止します。

SHO データベースライセンスのタイプを確認するには、以下の手順を実施してください。

- 1 データベースファイルが保存されている場所を参照します。これは、23 ページの手順 a で指定した場所です。
- 2 テキストエディターで pmdb.lmp ファイルを開きます。
- 3 ライセンスのタイプ (LT=AC) を確認します。LT の値が AC ではない場合は、AC に変更します。
- 4 変更を保存してファイルを閉じます。

pmdb.lmp ファイル内でライセンスのタイプを変更した後で、データベースを再起動する必要があります。

- 1 [スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックします。[ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスが開きます。
- 2 services.msc を [名前] フィールドに入力してから、ENTER キーを押します。[サービス]ウィンドウが開きます。
- 3 右側のペインで、[SHR Sybase IQ service] を右クリックし、[再起動] をクリックします。

トポロジ収集のステータスのチェック

SHO がトポロジーデータを収集するよう適切に設定されているかどうかを検証します。トポロジー収集が完了された後、トポロジーデータのビューファイルが SHO で作成されます。それらの CSV ファイルは、%PMDB_HOME%\collect フォルダに保存されます。CSV ファイルはその後 %PMDB_HOME%\stage フォルダに、そして %PMDB_HOME%\stage\archive フォルダに送られます。各デプロイメントシナリオには以下のファイルがなければなりません。

共通 (すべてのデプロイメントシナリオで表示)	<ul style="list-style-type: none"> • <vcname>_0_relation_0_<entities>_<timestamp>.csv ここでは、<vcname> は収集に使用されている vCenter、<entities> はトポロジー関係データを収集中のリソース、<timestamp> は CSV ファイルが生成された時間を示します。 • <vcname>_0_config_0_<entity>_<timestamp>.csv ここでは、<vcname> は収集に使用されている vCenter、<entity> は設定データを収集中のリソース、<timestamp> は CSV ファイルが生成された時間を示します。 • <vcname>_0_perf_0_<entity>_<timestamp>.csv ここでは、<vcname> は収集に使用されている vCenter、<entity> はパフォーマンスデータを収集中のリソース、<timestamp> は CSV ファイルが生成された時間を示します。
RTSM	<ul style="list-style-type: none"> • SM_VMWare_BusinessView_0_relations_0_<timestamp>.csv • SM_VMWare_0_relations_0_<timestamp>.csv • SM_VC_VMWare_0_business_application_0_<timestamp>.csv • SM_VC_VMWare_0_business_service_0_<timestamp>.csv • SM_VC_VMWare_0_generic_0_<timestamp>.csv • SM_VC_VMWare_0_vmware_esx_server_0_<timestamp>.csv • SM_VC_VMWare_0_VMWare_nt_0_<timestamp>.csv • SM_VC_VMWare_0_VMWare_unix_0_<timestamp>.csv
HPOM	<ul style="list-style-type: none"> • SM_VC_VMWare_0_relations_0_<timestamp>.csv
VMware vCenter	<ul style="list-style-type: none"> • 利用可能な追加ファイルなし。

インストールされたコンテンツパックのチェック

管理コンソールを使用して、必要なすべてのコンテンツパックがインストールされたかどうかを検証できます。コンテンツパックの一覧を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート]→[プログラム]→[HP Software]→[SH Optimizer]→[Administration]をクリックして管理コンソールを開きます。

- ログイン画面にユーザーの資格情報を入力し、[ログイン] をクリックします。管理コンソールホームページが開きます。
- 左のペインで、[内部監視] → [コンテンツ] をクリックします。SHO [コンテンツ] ページが開きます。
このページには、すべてのインストール済みのコンテンツパックが、インストール日付とともに表示されます。
- すべてのコンテンツパックが正常にインストールされると、各コンテンツパックのコンポーネントの [ステータス] 列に [Installation Successful] と表示されます。

コンテンツパックのワークフローストリームステータスのチェック

管理コンソールのワークフローストリームのステータスをチェックすると、収集されたデータに対してデータ集約を実行しているか、またデータベースにデータが読み込まれているかどうかを確認できます。インストールされているコンテンツパックの場合、すべてのワークフローストリームは、待機状態ではなく、実行中であるかまたは正常に完了済みである必要があります。ストリームの詳細を表示するには、次の手順を実行します。

- [スタート] → [プログラム] → [HP Software] → [SH Optimizer] → [Administration] をクリックして管理コンソールを開きます。
- ログイン画面にユーザーの資格情報を入力し、[ログイン] をクリックします。管理コンソールホームページが開きます。
- 左のペインで、[内部監視] → [データ処理] をクリックします。[データ処理] ページが開きます。

		ストリームのステータスの詳細			
コンテンツパックコンポーネント名	ストリーム数	OK	警告	エラー	総計
VirtualEnvPerf_Domain_VMWare	1	1	0	0	1
SHO	12	12	0	0	12
SysPerf_Domain	1	1	0	0	1
Core_Domain	1	1	0	0	1
PMDB_Platform	3	3	0	0	3

コンテンツパックコンポーネントのストリームの詳細: SHO			
ストリーム名	スクリプトのステータス (完了/合計)	スクリプトのステータス	開始時刻
SHO@Rate_Hourly_Util_Facts	13/19	SUCCESS	2012/11/15 9:00:08
SHO@Storage_Rate_Hourly_Util_Facts	6/6	SUCCESS	2012/11/15 9:00:08
SHO@Cluster_Daily_Forecast_Facts	2/2	SUCCESS	2012/11/15 9:10:07
SHO@Storage_cluster_Daily_Forecast_Facts	2/2	SUCCESS	2012/11/15 9:10:07
SHO@Business_Service_Daily_Forecast_Facts	2/2	SUCCESS	2012/11/15 9:10:07
SHO@Datacenter_Daily_Forecast_Facts	2/2	SUCCESS	2012/11/15 9:10:07

このページで、各コンテンツパックの実行中のワークフローストリームの数と、それらのストリームのステータスをチェックできます。

以下は、すべてのデプロイメントシナリオに利用可能な共通ストリームです。

- ETL_SM_VI_VMWare_VC@K_CI_Bridge
- ETL_SM_VI_VMWare_VC@K_VM_DStore_Bridge
- ETL_SM_VI_VMWare_VC@K_VMWare_DataCenter

- ETL_SM_VI_VMWare_VC@SR_VMWare_ResPool
- ETL_SM_VI_VMWare_VC@K_Host_Cluster_Bridge
- ETL_SM_VI_VMWare_VC@K_CI_System
- ETL_SM_VI_VMWare_VC@K_DStore_Cluster_Bridge
- ETL_SM_VI_VMWare_VC@SR_VMWare_Cluster
- ETL_SM_VI_VMWare_VC@K_VMWare_Cluster
- ETL_SM_VI_VMWare_VC@SR_SM_NODE_RES
- ETL_SM_VI_VMWare_VC@SR_VMWare_DataStore
- ETL_SM_VI_VMWare_VC@K_VMWare_ResourcePool
- ETL_SM_VI_VMWare_VC@SR_VI_VM
- ETL_SM_VI_VMWare_VC@K_VMWare_DataStore
- ETL_SM_VI_VMWare_VC@K_VM_Host_Bridge
- ETL_SM_VI_VMWare_VC@K_CI_VM
- ETL_SM_VI_VMWare_VC@K_RP_Host_Bridge
- ETL_SM_VI_VMWare_VC@K_VMWare_VMDisk

以下のストリームは、**RTSM** デプロイメントシナリオに利用可能です。

- ETL_SM_VI_VMWare_VC@K_CI_Business_Service
- ETL_SM_VI_VMWare_VC@K_CI_Application
- ETL_SM_VI_VMWare_VC@K_CI

以下のストリームは、**HPOM** デプロイメントシナリオに利用可能です。

- ETL_SM_VI_VMWare_VC@K_CI

ステップステータスに関する詳細は、『管理者オンラインヘルプ』のトピック「[ジョブストリームのステータスについて](#)」を参照してください。

ETL のデータ移動のチェック

それ以外に、`%PMDB_HOME%\stage\failed_to_load` フォルダをチェックすることにより、データが **SHO** データベースに読み込まれていることを検証することもできます。段階テーブルへのデータの読み込みが正常に完了していたら、`failed_to_load` フォルダに **CSV** ファイルはなくなります。

データは、段階テーブルに読み込まれた後、データベースに移動されます。それを検証するには、`%PMDB_HOME%\stage\collection\failed_to_load` フォルダをチェックします。データが正常にデータベースに保管された場合、`failed_to_stage` フォルダおよび `failed_to_load` フォルダに **CSV** ファイルはまったくなくなります。

正常に完了したワークフローストリームの **CSV** ファイルは、`archive` フォルダに移動されます。

`%PMDB_HOME%\log` フォルダに置かれている `trend.log` ファイルをチェックして、ストリームの集約の詳細を知ることができます。`loader.log` ファイルをチェックして、データ読み込みに関する詳細を知ることができます。

11 SHO のアンインストール

SHO サーバーをアンインストールする前に、コンテンツパックをアンインストールする必要があります。



- SHO を SHR がインストールされたシステムにインストールする場合は、SHO コンテンツパックのみを削除してください。
- VMware vCenter をデータソースとして保持したい場合、**vCenter Collector ContentPack** は削除しないでください。

ただし、HP Performance Agentをデータソースとして使用したい場合は、**vCenter Collector ContentPack**を削除して**VirtualEnvPerf_ETL_VMWare_PerformanceAgent** コンテンツパックをデプロイしてください。

SHO をアンインストールするには次のタスクを実行してください。

タスク 1: pmdbconfig.cfg ファイルのバックアップ

SHO のアンインストールを開始する前に、pmdbconfig.cfg ファイルをバックアップしてください。

このファイルの場所は %sybase%\IQ-15_4\Scripts です。

タスク 2: SHO データベースのバックアップ

SHO のアンインストールを開始する前に、SHO データベースをバックアップすることをお勧めします。

SHO には、バックアッププロセスを開始する前に、各自の要件に合わせて編集する必要があるバックアップスクリプトが用意されています。このスクリプトは、%PMDB_HOME%\scripts\Sybase フォルダに用意されています。

バックアップスクリプトを編集するには、以下の手順を実施してください。

- 1 %PMDB_HOME%\scripts\Sybase フォルダを参照します。
- 2 メモ帳アプリケーションで IQ_backup_full.sql を開きます。

.sql スクリプトの最後のパラメーターで、location_for_backup をバックアップファイルの保存先の場所と置き換えます。

```
dsi_pmdb_backup  
'FULL',NULL,'READWRITE_FILES_ONLY',NULL,NULL,NULL,NULL,NULL,'D','location_for_backup'
```

例: 'FULL',NULL,'READWRITE_FILES_ONLY',NULL,NULL,NULL,NULL,NULL,'D',
E:%HP-SHR\Backup




リモートデータベースを使用するSHOのインストールでは、バックアップ先の場所には、**SybaseIQ** データベースサーバー上の有効なパスを示します。

このスクリプトはExecute_FullBackup_Script.batファイルから実行します。このバッチファイルは %PMDB_HOME%\scripts¥ にあります。

スクリプト実行後、データベースバックアップが指定場所に作成されます。

タスク 3: コンテンツパックの削除

コンテンツパックを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 **SHO Windows** サービスを停止します。
 - a 管理者として、コンテンツパックがインストールされているホストシステムにログオンします。
 - b **[スタート]**→**[プログラム]**→**[管理ツール]**→**[サービス]**をクリックします。**[サービス]**ウィンドウが表示されます。
 - c 右のペインで、次のサービスを右クリックし、**[停止]**を選択してサービスを停止します。
 - HP PMDB Platform Timer
 - HP PMDB Platform Collection Service
 - d **[サービス]** ウィンドウを閉じます。
- 2 **[スタート]**→**[プログラム]**→**[HP Software]**→**[SH Optimizer]**→**[Administration]**をクリックして管理コンソールを開きます。
- 3 **[ログイン名]** フィールドに administrator と入力し、**[ログイン]** をクリックします。ホームページが開きます。
- 4 左のペインで、**[管理]** をクリックし、**[デプロイメントマネージャ]** をクリックします。**[デプロイメントマネージャ]** ページが開きます。
- 5 **[削除]** 列で、削除するコンテンツパックコンポーネントの  アイコンをクリックします。**[コンテンツパックコンポーネント削除のサマリー]** ダイアログボックスが開きます。

このダイアログボックスには、デプロイメントマネージャによって削除されるコンテンツパックコンポーネントの一覧が表示されます。この一覧には、選択したコンテンツパックコンポーネントとその他の従属コンポーネントが含まれています。
- 6 **[OK]** をクリックします。
- 7 次のように、**SHO Windows** サービスを再起動します。
 - a 管理者として、コンテンツパックがインストールされているホストシステムにログオンします。
 - b **[スタート]**→**[プログラム]**→**[管理ツール]**→**[サービス]**をクリックします。**[サービス]**ウィンドウが表示されます。
 - c 右のペインで、次のサービスを右クリックし、**[開始]**を選択してサービスを開始します。
 - HP PMDB Platform Timer
 - HP PMDB Platform Collection Service
 - d **[サービス]** ウィンドウを閉じます。

コンテンツパックの削除は正常に完了しました。

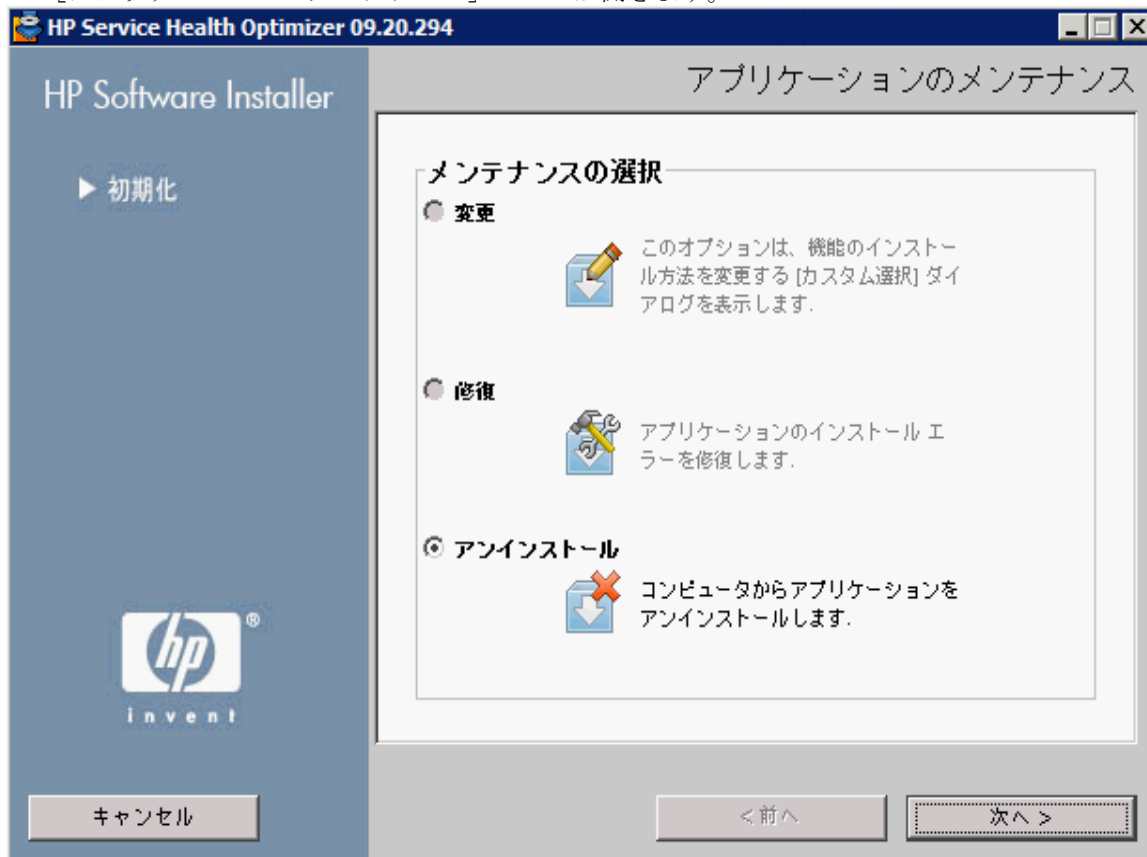
タスク 4: SHO のアンインストール

SHO をアンインストールするには、次の手順を実行します。

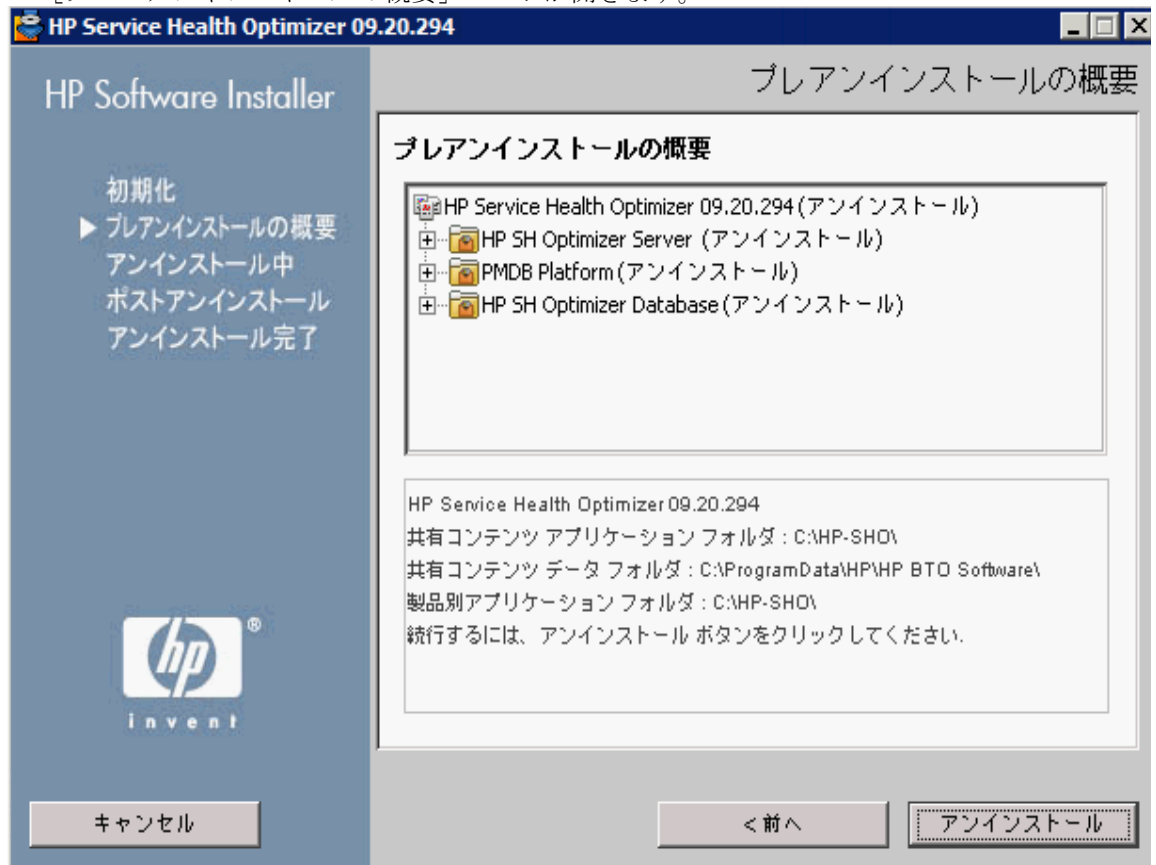
- 1 [スタート] → [設定] → [コントロール パネル] をクリックします。[コントロール パネル] ウィンドウが開きます。
- 2 [プログラムの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。[プログラムの追加と削除] ウィンドウが開きます。
- 3 [現在インストールされているプログラム] で **HP Service Health Optimizer** を選択し、[変更と削除] をクリックします。HP Software Installer が開きます。

HP Software Installer は、ウイルス対策ソフトウェアなどの、アンインストールプロセスを妨げる可能性のあるアプリケーションまたはサービスをシステム内でチェックします。HP Software Installer が支障の存在を検出すると、警告またはエラーが生成され、アプリケーションの要件チェックの警告ウィンドウが開きます。

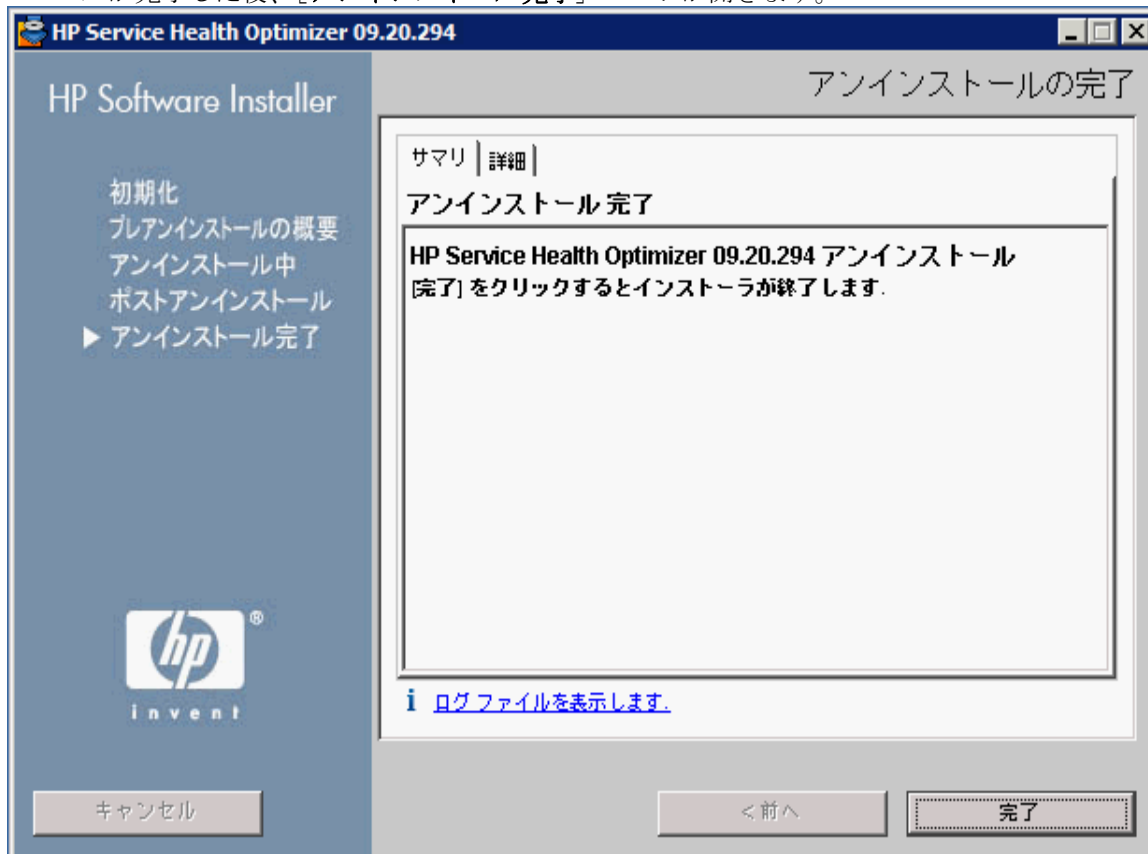
- 4 アプリケーションの要件チェックの警告ウィンドウに表示される警告の詳細を表示し、エラーまたは警告を解決または無視します。
 - a 特定の警告またはエラーをクリックして詳細を表示します。
 - b 詳細説明に従ってエラーまたは警告を解決または無視します。
 - アンインストールを終了してエラーを解決する場合は、[終了] をクリックします。エラーが解決したら、アンインストールプロセスをもう一度開始します。
 - 警告を無視してアンインストールプロセスを続行する場合は、[続行] をクリックします。
- [アプリケーションのメンテナンス] ページが開きます。



- 5 [アンインストール] を選択し、[次へ] をクリックします。
[プレアンインストールの概要] ページが開きます。



[アンインストール] をクリックしてアンインストールプロセスを開始します。アンインストールが完了した後、[アンインストール完了] ページが開きます。



- 6 [ログファイルを表示します] をクリックしてアンインストールプロセスの詳細を表示します。[完了] をクリックしてアンインストールを完了します。
- 7 %PMDB_HOME%\packages に移動し、SHO フォルダを削除します。
SHO をシステムから正常にアンインストールしました。

リモート SHO データベースのアンインストール

SHO データベースをアンインストールするには、以下の手順を実施してください。

- 1 次のように、SHO Windows サービスを停止します。
 - a 管理者として SHO がインストールされたホストシステムにログオンします。
 - b [スタート]→[プログラム]→[管理ツール]→[サービス]をクリックします。[サービス]ウィンドウが表示されます。
 - c 右のペインで、次のサービスを右クリックし、[停止]を選択してサービスを停止します。
 - PMDB Platform Timer
 - PMDB Platform Collection Service
 - PMDB Platform Message Broker
 - PMDB Platform
 - PMDB Platform IM Service
 - PMDB Platform DB Logger Service
 - PMDB Platform Collection Service
 - PMDB Platform Timer
 - PMDB Platform Sybase Service
 - Sybase IQ Agent 15.40[サービス]ウィンドウを閉じます。
- 2 Windows デスクトップ上で、[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックします。
- 3 [コントロールパネル]ウィンドウの [プログラムの追加と削除] をクリックします。
- 4 [プログラムの追加と削除]ウィンドウで [Sybase IQ 15.2 (64-bit)] をクリックしてから、[変更/削除] をクリックし、SHO データベースアプリケーションを削除します。
- 5 Sybase IQ アンインストールウィザードで、[よろこそ] ページの [次へ] をクリックします。
- 6 削除しようとしている機能が選択済みであることを確認してから、[次へ] をクリックします。
- 7 [次へ] をクリックしてから [アンインストール] をクリックします。
- 8 [Remove Existing File] メッセージボックスで、[すべてはい] をクリックします。
- 9 [Restore Environment Variable] メッセージボックスで、[すべてはい] をクリックします。
- 10 [終了] をクリックしてアンインストールプロセスを完了します。
- 11 [Yes, restart my computer] オプションを選択してから、[終了] をクリックし、システムを再起動します。

12 付録

この付録では、SHO に関連する追加の情報を提供します。

インストールログファイル

SHO のインストール中に問題が生じた場合、インストールの失敗を知らせるエラーメッセージが **HP Software Installer** で生成されます。ただし、そのエラーメッセージに、問題の解決に必要な情報がすべて示されるとは限りません。別の方法として、トラブルシューティングツールの 1 つとして、インストールログファイルを使用することもできます。

SHO のインストールログファイルは、以下の場所に置かれています。

```
%temp%\HPOvInstaller\HPSHO_9.20.000
```

このログファイルには、タイムスタンプが付加されています。以下に例を示します。

- HPSHO_9.20.000_<installation date and time>_HPOvInstallerLog.txt
- HPSHO_9.20.000_<installation date and time>_HPOvInstallerLog.html

SHO.log ファイルのデバッグレベルの設定

問題をトラブルシューティングする際に SHO.log ファイルを効果的に使用するには、事前に、その問題に関する詳細情報を持つておく必要があります。デフォルトでは、SHO.log ファイルには **INFO** (情報)、**ERROR** (エラー)、**WARNING** (警告) または **FATAL** (致命的) のカテゴリのメッセージのみが表示されます。詳細情報が必要な場合は、**DEBUG** (デバッグ) または **ALL** (すべて) のカテゴリのメッセージをログファイルに記録するように **SHO** を設定できます。デバッグカテゴリのメッセージは、単純なエラーまたは警告メッセージではなく、発生した特定のエラーに関する追加情報を提供します。

SHO.log ファイルのデバッグカテゴリレベルを設定するには、以下の手順を実施してください。

- 1 %OVDatadir%/Conf/SHO フォルダーから log4j.properties ファイルを開きます。
- 2 [一般] タグですべてのモジュールのデバッグ値を追加します。
- 3 変更を保存してファイルを閉じます。

デフォルトのポート番号の変更

SHO に割り当てられるデフォルトポートは 8081 ですが、このポートを利用できない場合は、インストーラーから警告メッセージが表示されます。インストールの完了後に、SHO に異なるポートを割り当てることができます。

デフォルトのポート番号を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 目的のポート番号が利用可能かどうかを確認するには、次のコマンドを実行します。

```
cd %ovinstallldir%\nonOV\tomcat\bin
```

```
cscripct OvTomcatBctl.vbs -checkport <ポート番号>
```

ここでの <ポート番号> は、HP Openview Tomcat(B) に割り当てるポート番号です。

ポートが利用可能かどうかを示すメッセージが表示されます。たとえば、ポート番号 8081 が利用可能かどうかを確認する場合、ポート番号が利用可能であれば「ポート番号 8081 は使用されていません」というメッセージが表示されます。ポート番号 8081 が利用可能でない場合は、別のプログラムまたはサービスでポート番号が使用されていることを示すメッセージが表示されます。

- 2 HP Openview Tomcat(B) Servlet Container Service を停止します。

HP Openview Tomcat(B) Servlet Container Service を停止するには、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
ovc -stop ovtomcatB
```

- 3 SHO サーバーの http または https ポート番号を変更するには、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
cd %ovinstallldir%\nonOV\tomcat\bin
```

```
ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -set HTTPPort <ポート番号>
```

```
ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -set HTTPSPort <ポート番号>
```

- 4 HP Openview Tomcat(B) Servlet Container Service を起動します。

HP Openview Tomcat(B) Servlet Container Service を起動するには、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
ovc -start ovtomcatB
```

デフォルトポート (8081) がその他一部のアプリケーションに SHO とともに割り当てられた場合、SHO ログイン画面のロードに失敗する場合があります。このシナリオでは、上記の手順を用いて SHO のデフォルトポートを変更します。

HPOM データベースサーバーでのデータベースユーザーアカウントの作成

この作業の実行方法は、HPOM 環境で Microsoft SQL Server がどのように設定されているかと、HPOM データベースサーバーと通信するために SHO をどのように設定できるかによって異なります。選択できるシナリオには次の 2 つがあります。


- HPOM for Windows 8.x/9.x が 1 つのシステムにインストールされ、Microsoft SQL Server 2005 または Microsoft SQL Server 2008 は同一システムまたはリモートシステムにインストールされます。別のシステムにインストールされている SHO は、Windows 認証または SQL Server 認証 (混合モード認証) を介して SQL Server に接続するように設定できます。SQL Server に定義されている認証方法を SHO で使用して、HPOM データベース接続を設定できます。
- HPOM for Windows 8.x は、デフォルトで組み込まれている Microsoft SQL Server 2005 Express Edition を使用します。同様に、HPOM for Windows 9.x も、デフォルトで組み込まれている Microsoft SQL Server 2008 Express Edition を使用します。このシナリオにおける認証モードは、Windows NT 認証です。ただし、その場合、SQL Server と SHO の間のリモート接続は可能ではありません。したがって、混合モード認証が可能になるよう、SHO 用のユーザーアカウントを作成する必要があります。

そのユーザーアカウントを作成する前に、まず混合モード認証を利用可能にする必要があります。その手順の詳細は、次の URL の「Microsoft サポート SQL Server Desktop Edition または SQL Server 2005 Express Edition のインスタンスに接続する方法」の記事の中の「インストール後に混合モード認証を有効にする」セクションを参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/319930>

認証のためにユーザー名およびパスワードを作成するには、以下の手順を実行します。Microsoft SQL Server 2008 を使用する場合、手順は、SQL Server 2005 で実行される次のような手順に似通っています。

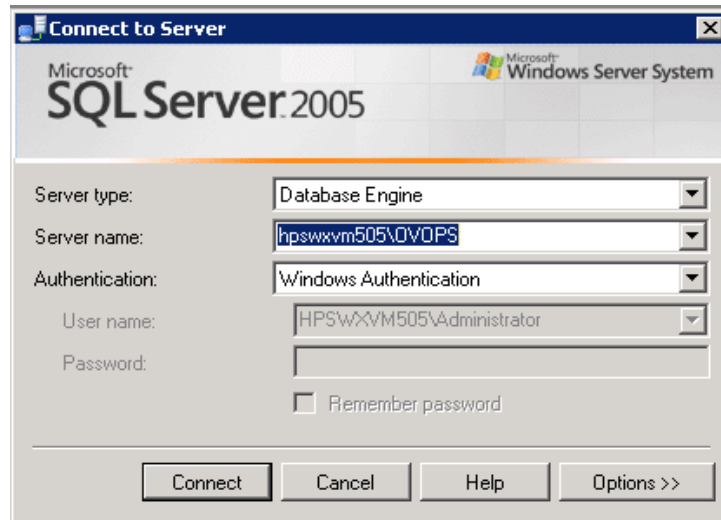
- 1 ユーザー名とパスワードを作成します。
 - a 組み込みの Microsoft SQL Server 2005 を使って HPOM システムにログオンします。
 - b [スタート] → [プログラム] → [Microsoft SQL Server 2005] → [SQL Server Management Studio] をクリックします。[Microsoft SQL Server Management Studio] ウィンドウが開きます。

 SQL Server Management Studio がシステムにインストールされていない場合、次の URL を使用して Microsoft の Web サイトからダウンロードできます。

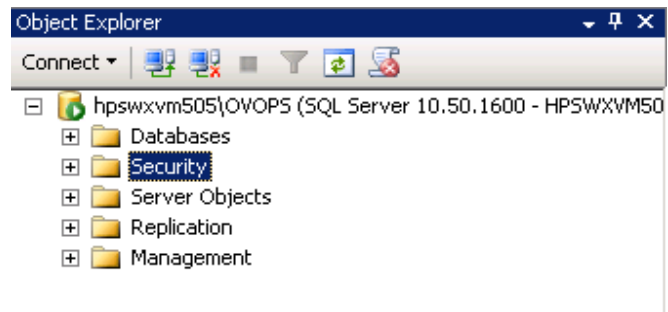
[http://www.microsoft.com/downloads/en/](http://www.microsoft.com/downloads/en/details.aspx?FamilyID=c243a5ae-4bd1-4e3d-94b8-5a0f62bf7796)

[details.aspx?FamilyID=c243a5ae-4bd1-4e3d-94b8-5a0f62bf7796](http://www.microsoft.com/downloads/en/details.aspx?FamilyID=c243a5ae-4bd1-4e3d-94b8-5a0f62bf7796) (英語サイト)。

- c [サーバーへの接続]ダイアログボックスで、[認証]リストから[Windows 認証]を選択してから、[接続]をクリックします。



- d [オブジェクトエクスプローラ] ペインで、[セキュリティ]を展開します。

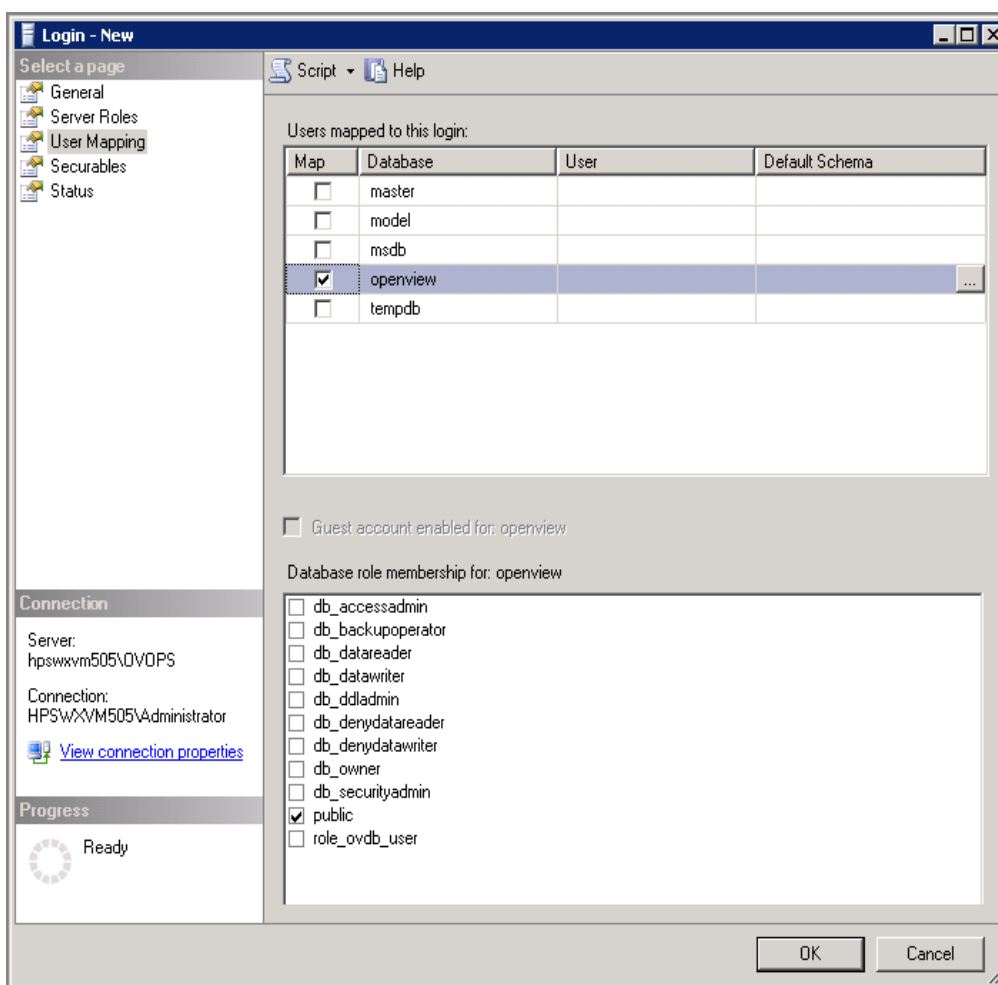


- e [ログイン] を右クリックし、[新しいログイン] をクリックします。[ログイン - 新規作成] ダイアログボックスが開きます。

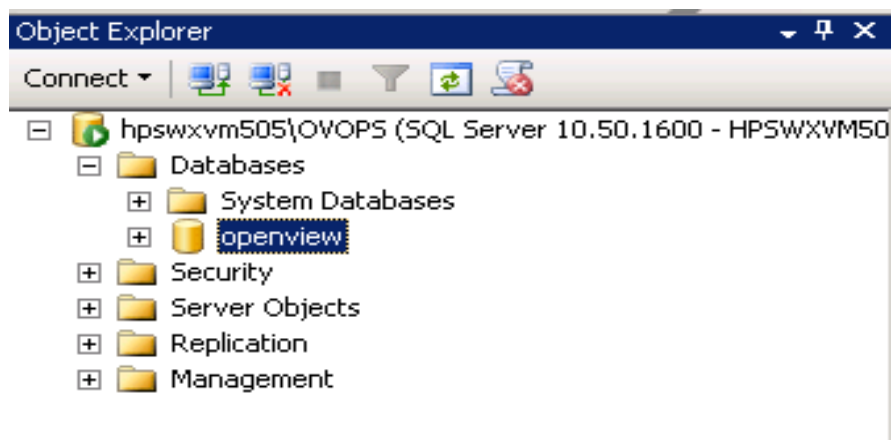
Dialog box titled "Login - New" showing configuration options for a new login. The "Login name" field is empty. The "Authentication" section has "Windows authentication" selected. The "Password" section has "Enforce password policy", "Enforce password expiration", and "User must change password at next login" checked. The "Mapped Credentials" table is empty. The "Default database" is set to "master" and the "Default language" is set to "<default>".

- f [ログイン名] フィールドにユーザー名を入力します。必要なその他の詳細を指定します。
- g [SQL Server 認証] ラジオボタンを選択します。
- h [パスワード] フィールドにパスワードを入力します。
- i [パスワードの確認入力] フィールドにパスワードをもう一度入力します。パスワードの入力義務ルールを無効にして、シンプルなパスワードを作成することができます。
- j [ユーザー マッピング] をクリックします。

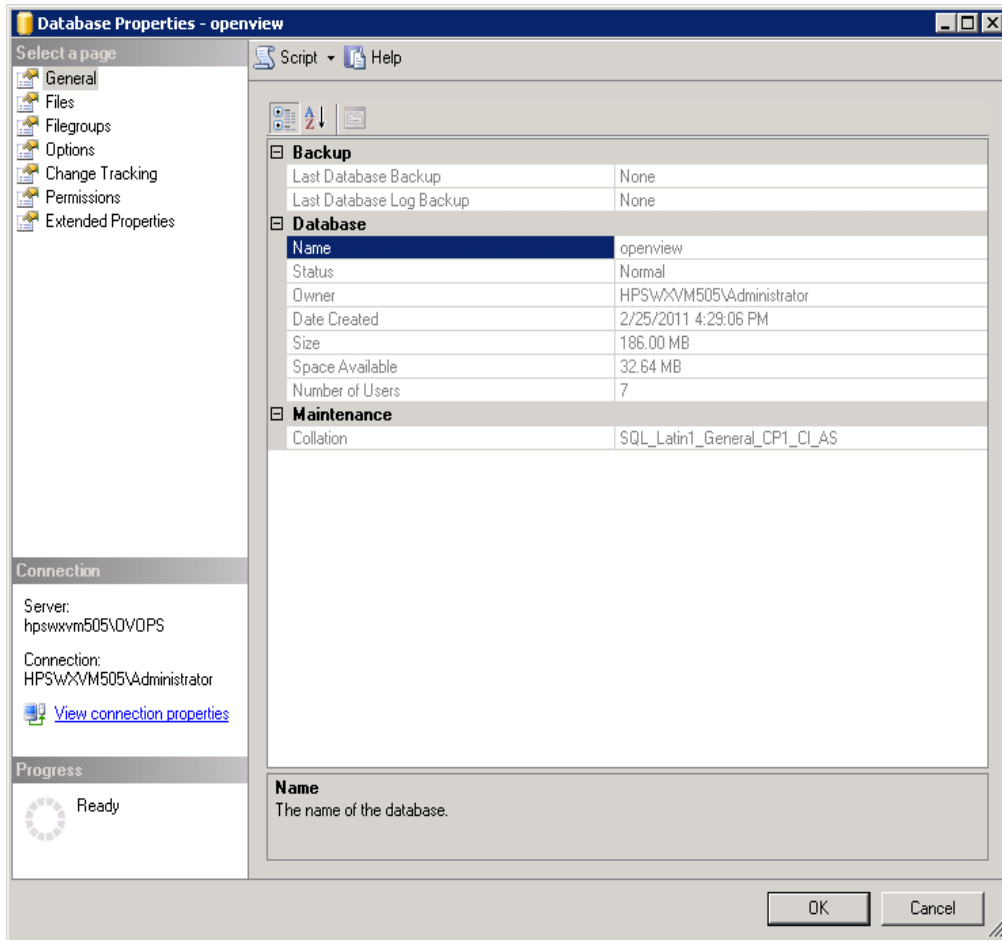
- k [このログインにマップされたユーザー]の下で、[openview]の横のチェックボックスを選択します。



- l [OK] をクリックし、ユーザー名とパスワードを作成します。
- 2 データベースユーザーは、少なくとも **CONNECT** 権限および **SELECT** 権限を持っていないければなりません。
新たに作成したユーザーアカウントに対して **CONNECT** 権限および **SELECT** 権限を有効にするには、次の手順を実行します。
- a [オブジェクトエクスプローラ] ペインで、[データベース] を展開します。

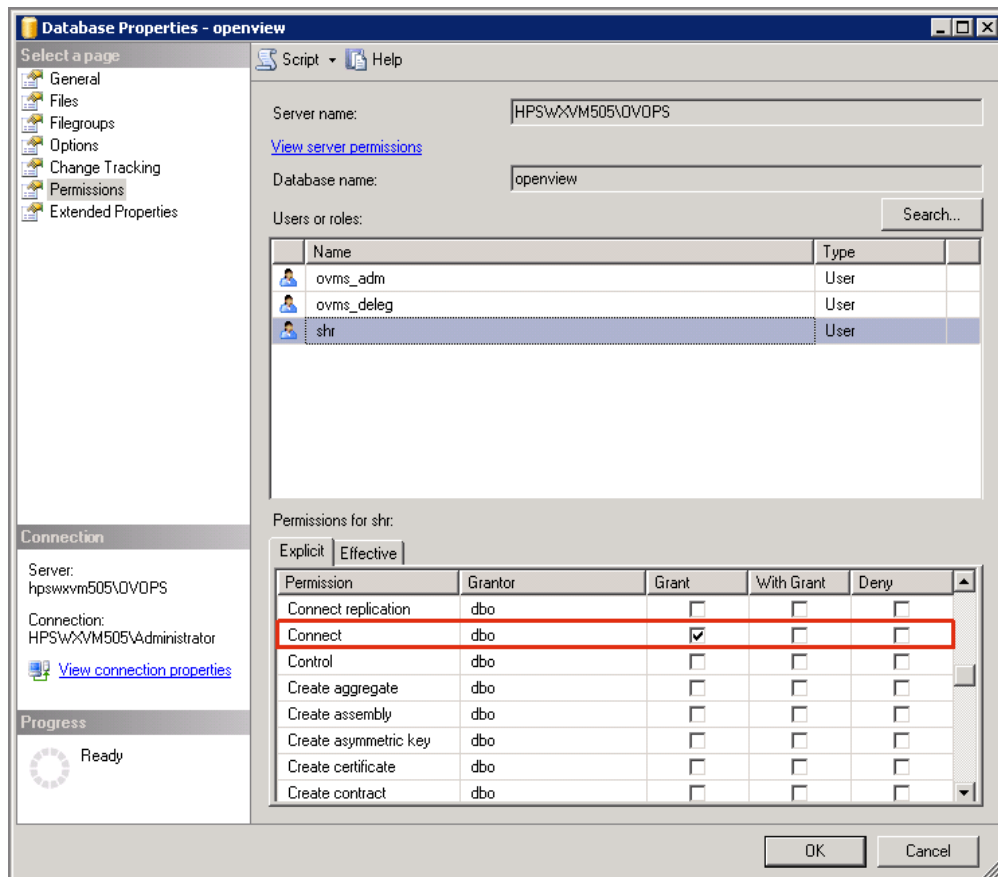


- b [openview] を右クリックしてから、[プロパティ] をクリックします。[データベースのプロパティ - openview] ダイアログボックスが開きます。

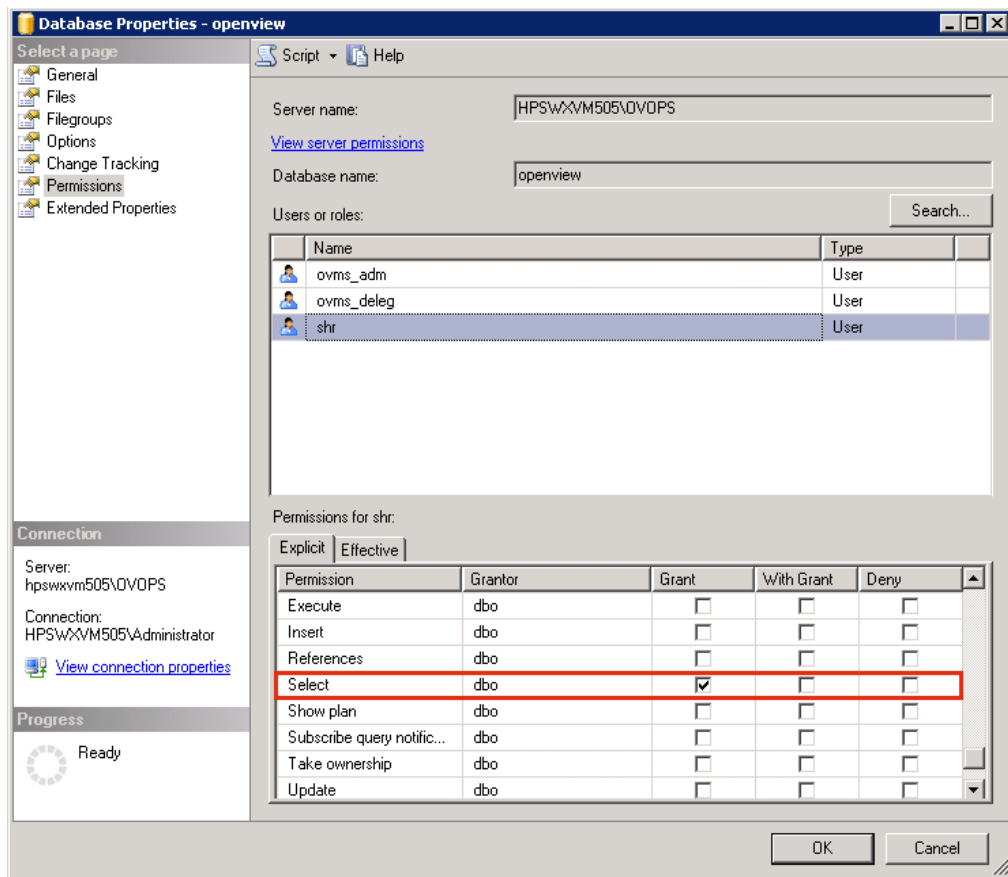


- c [ページの選択] ペインで、[権限] をクリックします。
- d [ユーザーまたはロール] の下で、新たに作成したユーザーアカウントをクリックします。

- e [明示的な権限] の下で、**CONNECT** 権限にスクロールダウンしてから、その権限に対する [許可] チェックボックスを選択します。

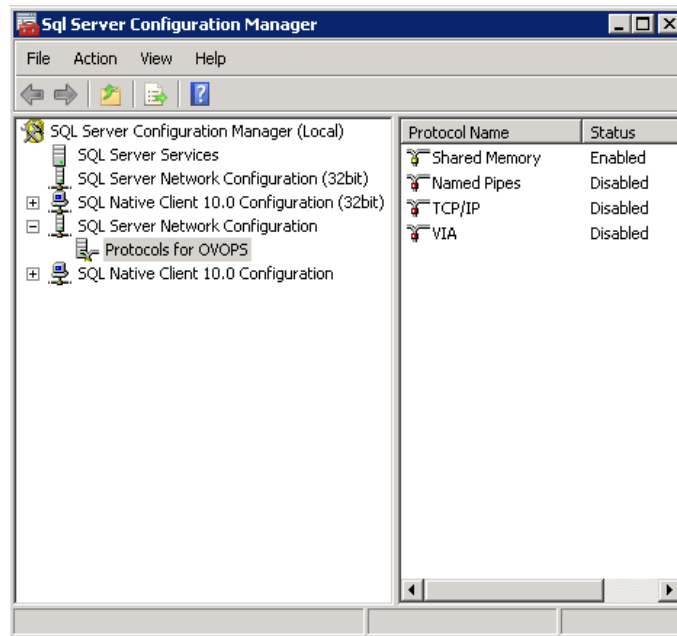


- f **SELECT** 権限にスクロールダウンし、その権限に対する [許可] チェックボックスを選択します。

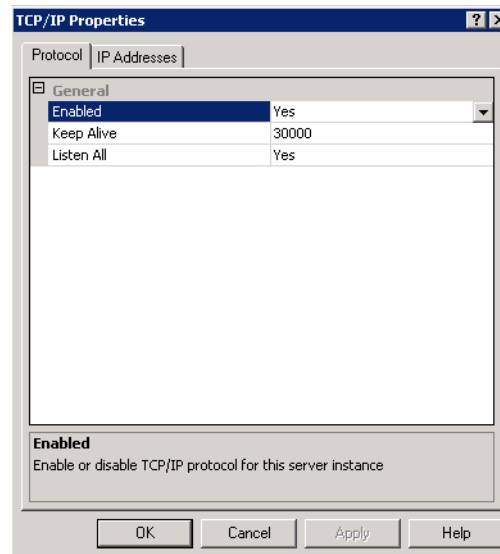


- g [OK] をクリックします。
- 3 次のように、HPOM サーバーのポート番号をチェックします。
- a [スタート]→[プログラム]→[Microsoft SQL Server 2005]→[構成ツール]→[SQL Server 構成マネージャ] をクリックします。[SQL Server 構成マネージャ] ウィンドウが開きます。

- b [SQL Server ネットワークの構成]を展開して[OVOPSのプロトコル]を選択します。右側のペインで、[TCP/IP]を右クリックしてから[有効化]をクリックします。

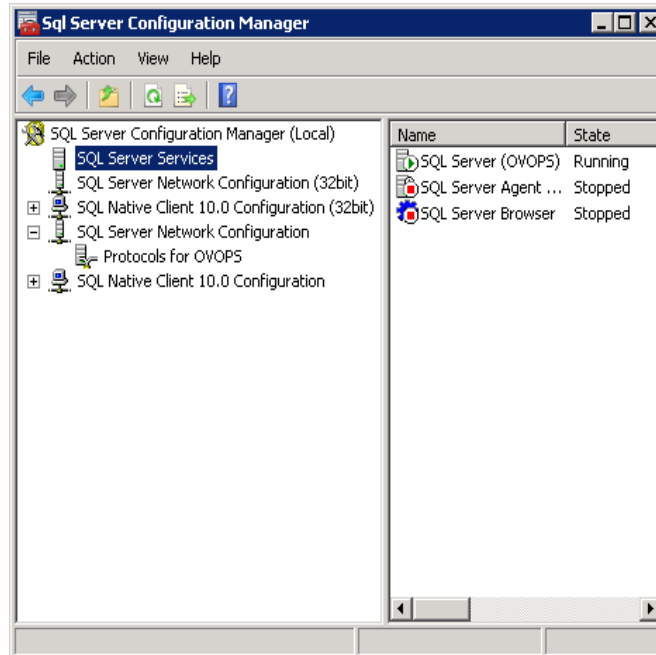


- c [TCP/IP]をもう一度右クリックし、[プロパティ]をクリックします。[TCP/IPのプロパティ]ダイアログボックスが開きます。



- d [IP アドレス] タブの [IPAll] の下のポート番号を書き留めます。
- 4 HPOM データベースサーバーを再起動します。

- a [SQL Server 構成マネージャ] ウィンドウで、[SQL Server のサービス] をクリックします。



- b 右側のペインで、[SQL Server (OVOPS)] を右クリックしてから[再起動] をクリックします。

管理コンソールで HPOM データソース接続を設定するときに、新たに作成したユーザー名、パスワードおよび検出したインスタンス名とポート番号を使用できます。



コマンドプロンプトユーティリティ **osql** を使用して、この手順を実行できます。詳細は、以下の URL の Microsoft サポート「osql ユーティリティを使用して SQL Server Desktop Engine (MSDE 2000) または SQL Server 2005 Express Edition を管理する方法」の記事を参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/325003>

コンテンツパックのコンポーネント

デプロイメントマネージャに表示されるコンテンツパックは以下の層またはコンポーネントに再構築されます。

- **ドメインコンテンツパックコンポーネント**: ドメインコンポーネントは、特定のコンテンツパックのデータモデルを定義します。これには、リレーショナルスキーマを生成するためのルールが含まれています。また、データベースへとデータを処理するためのデータ処理ルール (標準の事前集計ルールのセットを含む) も含まれています。ドメインコンテンツパックコンポーネントは、設定済みのトポロジソースまたはデータの収集元であるデータソースに依存しません。
- **ETLコンテンツパックコンポーネント**: ETLコンテンツパックコンポーネントは、収集ポリシーと、変換ルール、調整ルール、およびステージングルールを定義します。また、データ処理ステップの実行順序を定義するワークフローストリームも提供します。

ETL コンテンツパックコンポーネントは、データソース依存型です。そのため、特定のドメインについて、各データソースアプリケーションは異なる ETL コンテンツパックコンポーネントを持ちます。たとえば、HP Operations Agent からシステムパフォーマンスデータを収集する場合は、**SysPerf_ETL_PerformanceAgent** という ETL コンポーネントをインストールする必要があります。

単一のデータソースアプリケーションは、複数の ETL コンポーネントを持つことができます。たとえば、Performance Agent でサポートされる仮想技術 (Oracle Solaris Zones、VMware、IBM LPAR、Microsoft HyperV など) ごとに ETL コンポーネントを 1 つ持つことが可能です。ETL コンポーネントは、1 つまたは複数のドメインコンポーネントに依存できます。また、同じドメインコンポーネントにデータをフィードする複数の ETL コンポーネントを持つこともできます。

お客様からのご意見をお待ちしております。

電子メールクライアントを設定済みのシステムの場合は、次をクリックしてください。

電子メールの送信

電子メールクライアントを利用できない場合、Web メールクライアントで以下の事項を新規メッセージにコピーし、そのメッセージを **docfeedback@hp.com** にお送りください。

製品名およびバージョン：HP Service Health Optimizer 9.20

ドキュメントのタイトル：インストールおよび設定ガイド

フィードバック：



